

介護職員等によるたんの吸引等の実施のための制度の  
在り方に関する検討会（第7回）  
議事次第

平成23年2月21日（月）  
16:00～18:00  
於：全国都市会館第1会議室

議題：

介護職員によるたんの吸引等の試行事業の実施状況

配付資料：

資料1：介護職員によるたんの吸引等の試行事業（不特定多数の者対象）の概要と  
実施状況（中間報告）

資料2：介護職員によるたんの吸引等の試行事業（特定の者対象）の概要と実施状況  
（中間報告）

参考資料1：介護職員等によるたんの吸引等の実施のための制度の在り方について  
中間まとめ

参考資料2：介護職員によるたんの吸引等の試行事業について

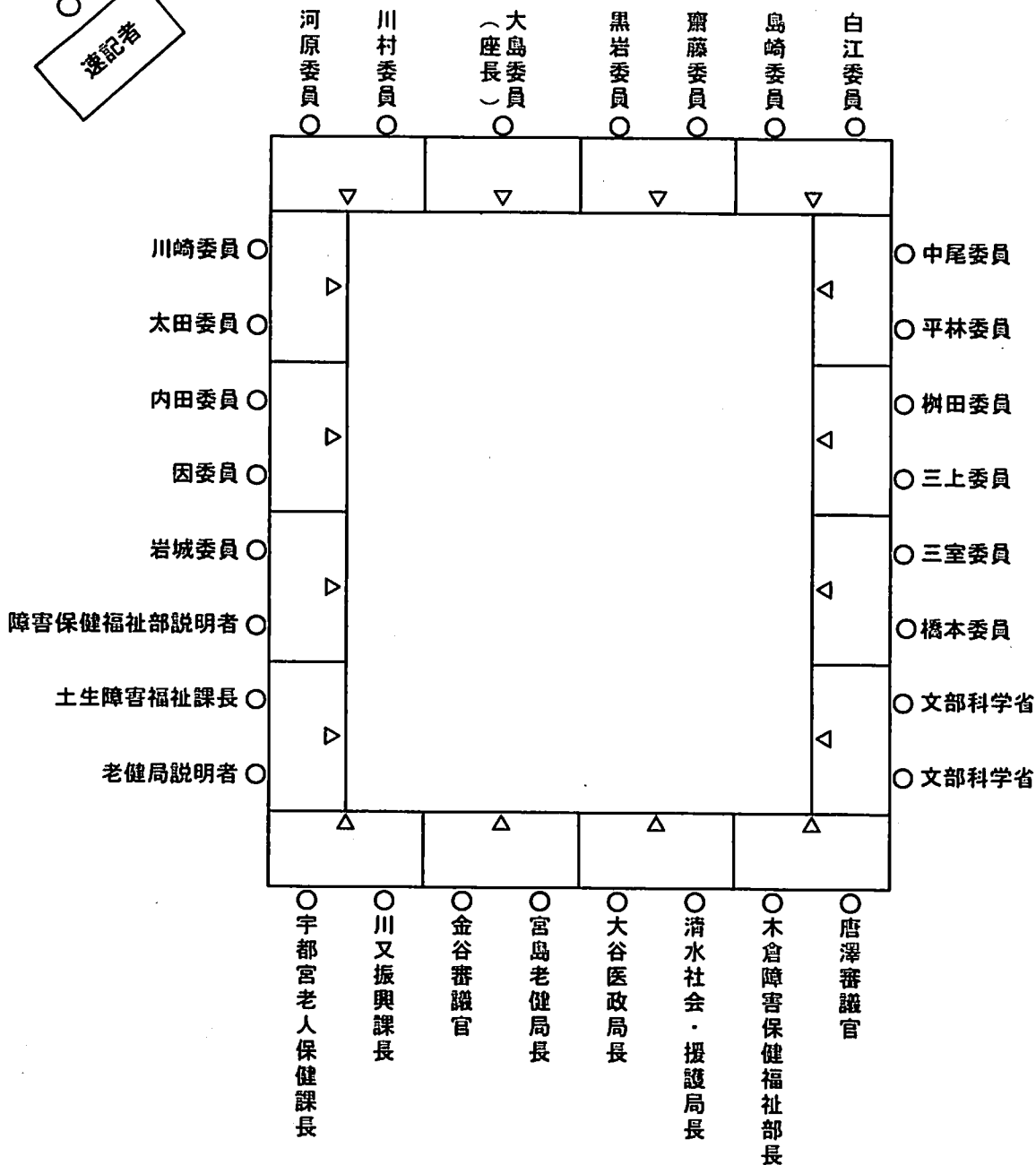
参考資料3：介護職員によるたんの吸引等の試行事業（特定の者対象）について

# 第7回介護職員等によるたんの吸引等の実施のための制度の 在り方に関する検討会

日時：平成23年2月21日（月）16：00～18：00

場所：全国都市会館第1会議室

○  
選記者



事務局席

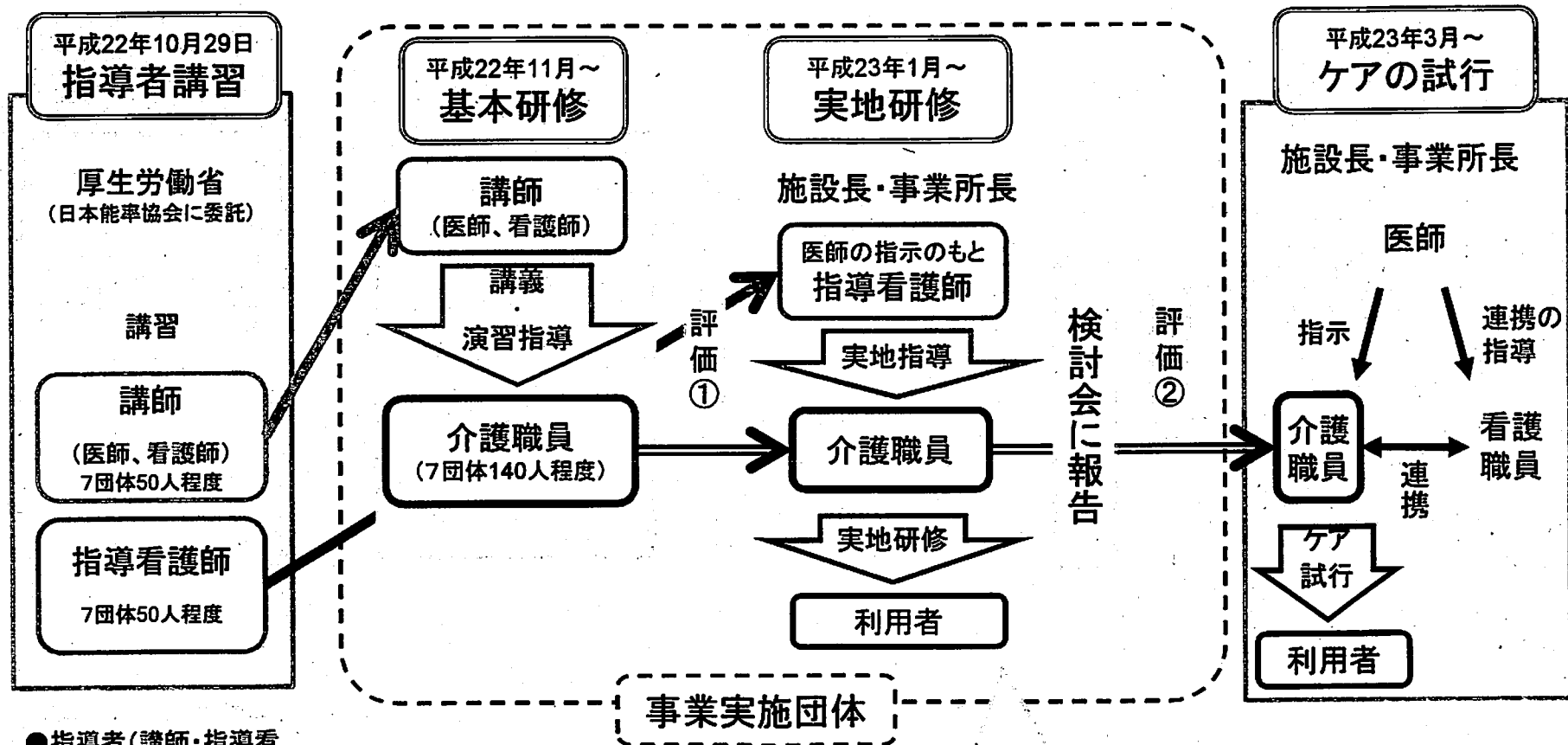
報道・一般傍聴

入口

介護職員によるたんの吸引等の試行事業  
(不特定多数の者対象)の概要と実施状況  
(中間報告)

# 介護職員によるたんの吸引等の試行事業（不特定多数の者対象）の概要

※ 試行事業の実施にあたっては、基本的内容について検討会で御議論いただいた上で、具体的な研修の実施内容・方法等については、検討会から大島座長、内田委員、太田委員、川崎委員、川村委員、橋本委員にアドバイザーをお願いしている。



- 指導者(講師・指導看護師)は事業実施団体から推薦された者
- 指導者へ試行事業の目的・方法・内容等を説明

- 事業実施団体は以下の7団体。  
 全国社会福祉協議会  
 全国有料老人ホーム協会  
 全国老人福祉施設協議会  
 全国老人保健施設協会  
 日本介護福祉士会  
 日本認知症グループホーム協会  
 日本訪問看護振興財団

- 実地研修は各施設・在宅事業所等において、指導看護師が介護職員1~3人程度を指導。
- 要件を満たす場合は、介護職員が勤務する自施設・在宅において実地研修を行うことも可能。

※今後、変更があり得る。

# 介護職員によるたんの吸引等の試行事業(不特定多数の者対象)における 指導者講習について

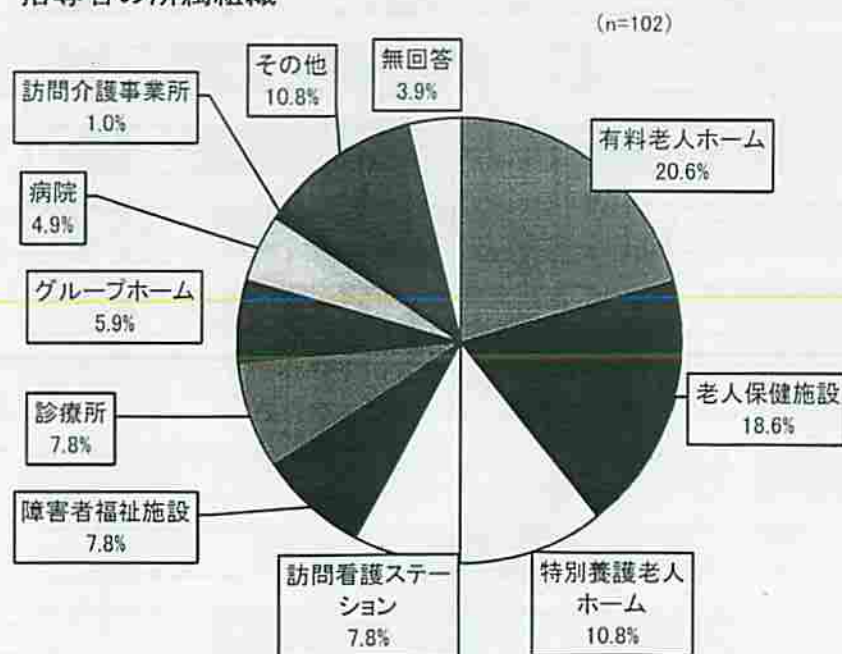
**目的**：介護職員の指導者に対して、「介護職員によるたんの吸引等の試行事業」の目的、内容及び方法を説明し、介護職員が安全なケアを実施できるような体制整備への理解を図る。

**日時**：平成22年10月29日(金)11時～17時

**参加者**：事業実施7団体から推薦された指導者102名(医師14名・看護師88名)

**経験年数**：平均23.3年(最長47年・最短4年)

指導者の所属組織



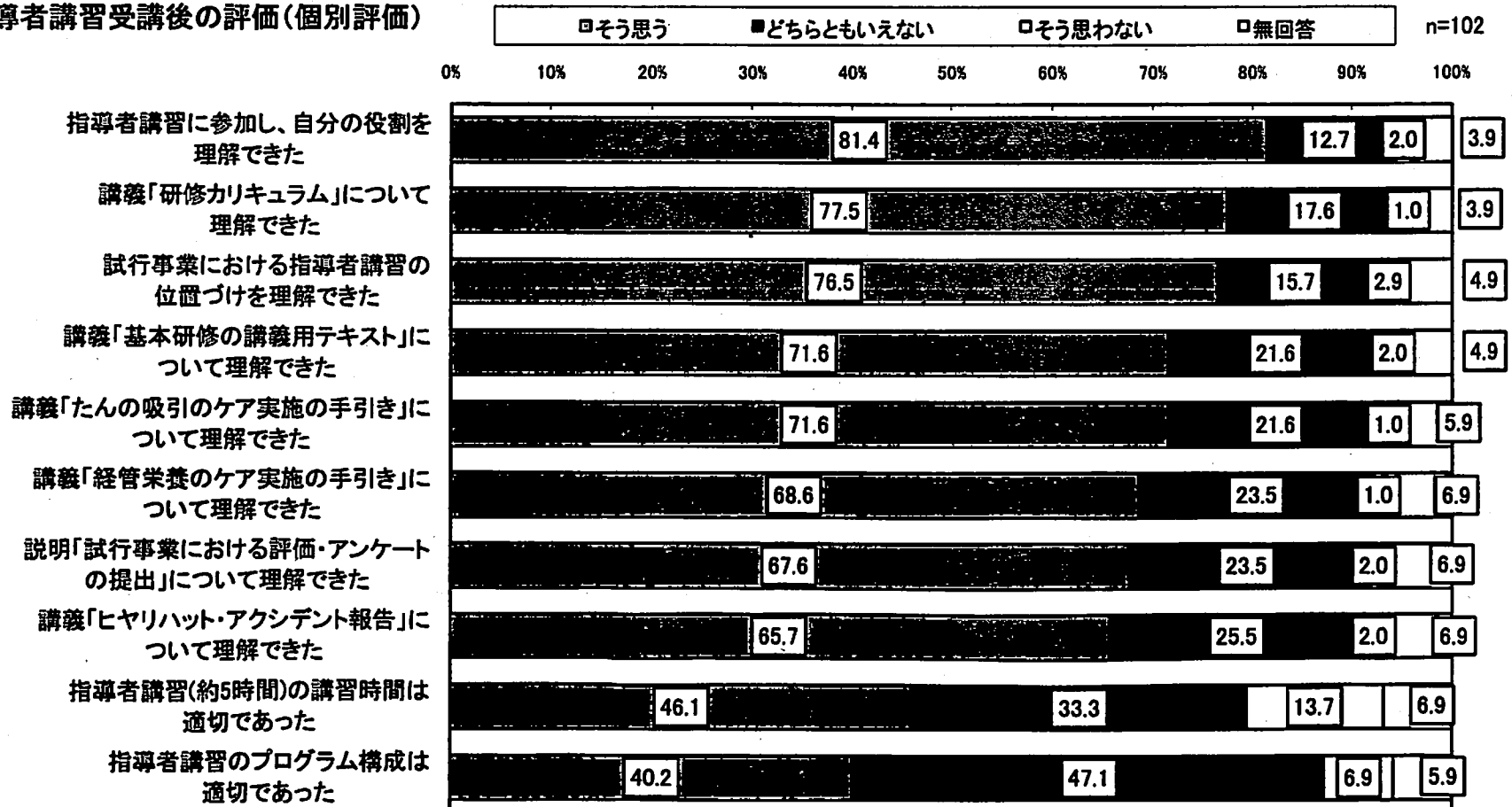
講習プログラム

講習内容	時間(分)
介護職員等によるたんの吸引等の実施のための検討会・試行事業について	60
研修カリキュラムについて	40
たんの吸引のケア実施の手引きについて	40
経管栄養のケア実施の手引きについて	40
ヒヤリハット・アクシデント報告について	20
評価票・アンケート票について	30
意見交換	30
計	260

# 介護職員によるたんの吸引等の試行事業(不特定多数の者対象)における 指導者講習について

受講後の質問票調査では、各質問項目を理解できたについて「そう思う」が7割程度のなかで、講習時間及びプログラム構成の適切さは「そう思う」が4割程度と評価が低かった。

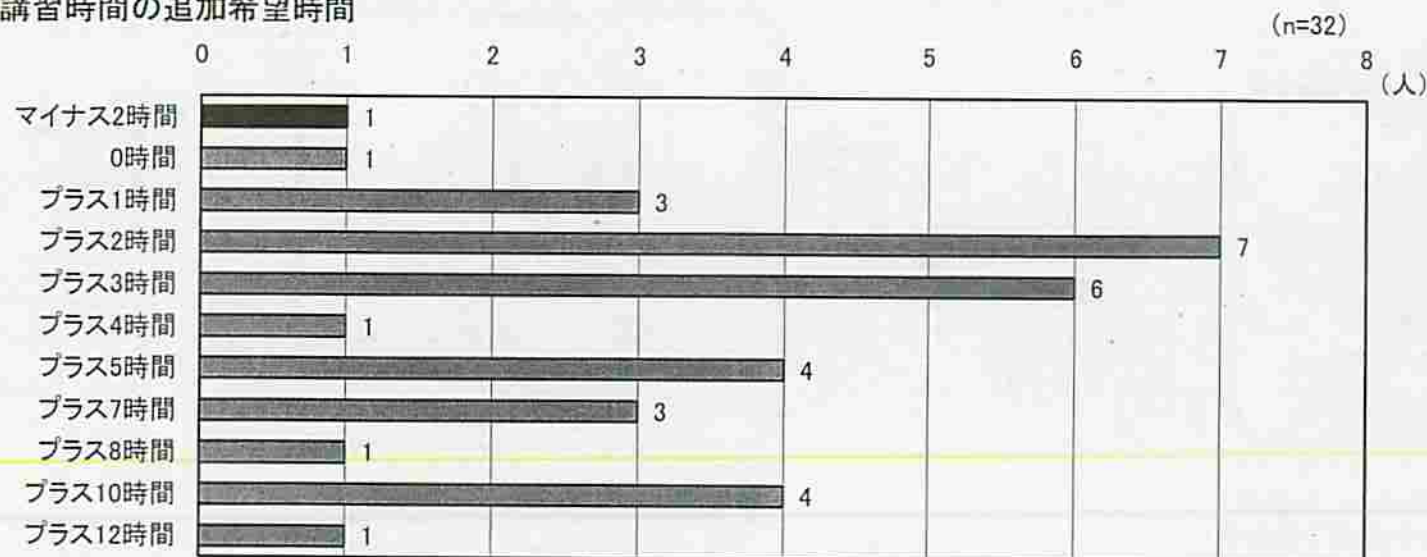
指導者講習受講後の評価(個別評価)



## 介護職員によるたんの吸引等の試行事業(不特定多数の者対象)における 指導者講習について

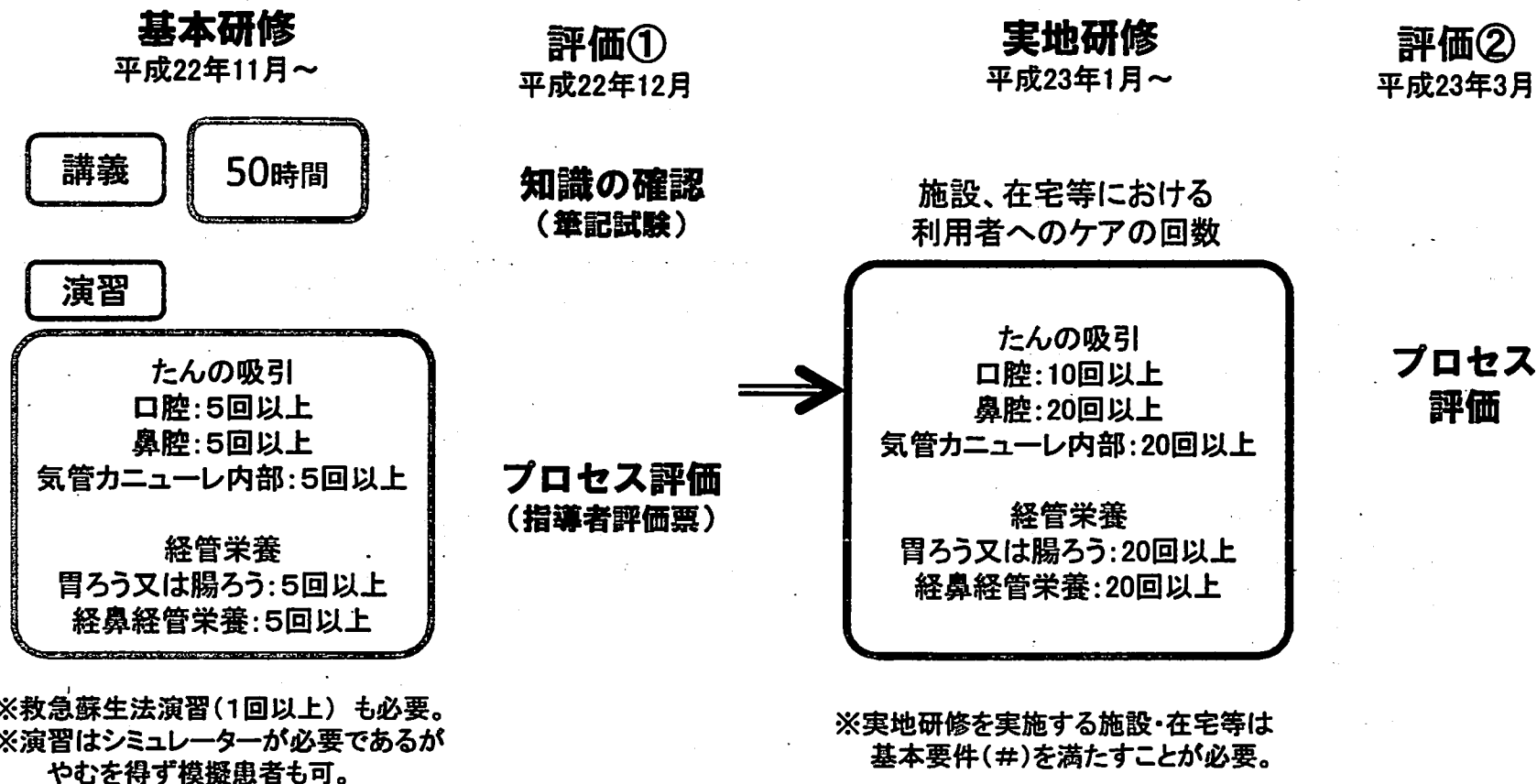
受講後の質問票調査では、「講習時間の適切さ」について「どちらともいえない」または「そう思わない」と回答した者(48名)のうち、30名が「現行(約5時間)の講習に加えて、時間追加が必要」と回答していた。

講習時間の追加希望時間



指導者講習に関する意見(自由記載)としては、「指導のポイントをもっと具体的に、詳しく説明してほしかった」「安全性の担保について、もう少し強調して説明してもよいのではないか」「実際の物品を使用して演習指導を講習してもよかったのではないか」等の講習内容の充実を求める記載が複数あった。

# 介護職員によるたんの吸引等の試行事業（不特定多数の者対象）の 研修カリキュラムの概要



## #実地研修を実施する際に必要とされる基本要件

- ①組織的対応を理解の上、介護職員等が実地研修を行うことについて書面による同意
- ②医師から指導看護師に対する書面による当該行為の指示
- ③指導看護師の具体的な指導
- ④患者(利用者)ごとの個別計画の作成
- ⑤マニュアルの整備
- ⑥関係者による連携体制の確保
- ⑦指示書や実施記録の作成・保管
- ⑧緊急時対応の手順、訓練の実施
- ⑨たんの吸引及び経管栄養の対象となる患者が適当数入所又は利用している
- ⑩介護職員を受け入れる場合には、介護職員数名につき指導看護師が1名以上配置
- ⑪介護職員を指導する指導看護師は臨床等での実務経験を3年以上有し、指導者講習を受講している



# 介護職員によるたんの吸引等の試行事業(不特定多数の者対象)における 基本研修について

参加者(介護職員)の約9割が介護福祉士の資格を保有している(現職は約8割)

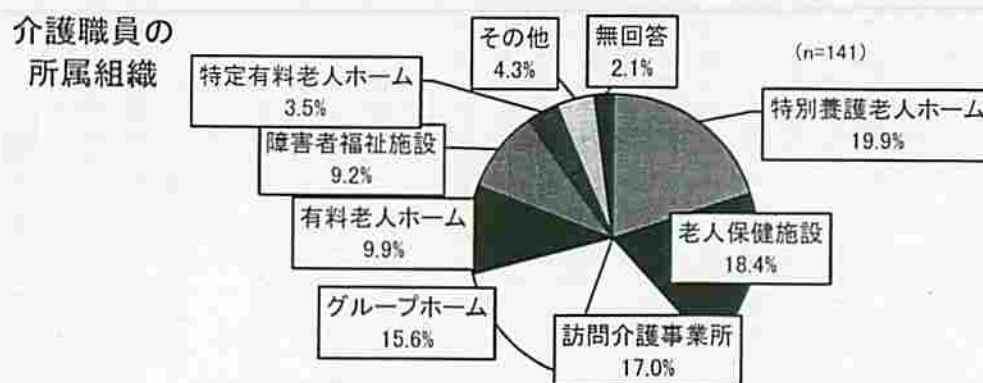
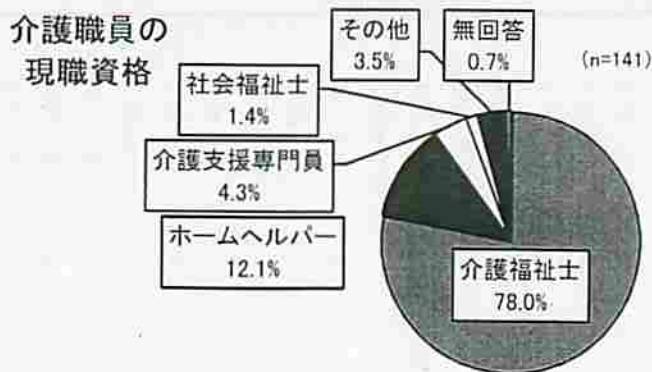
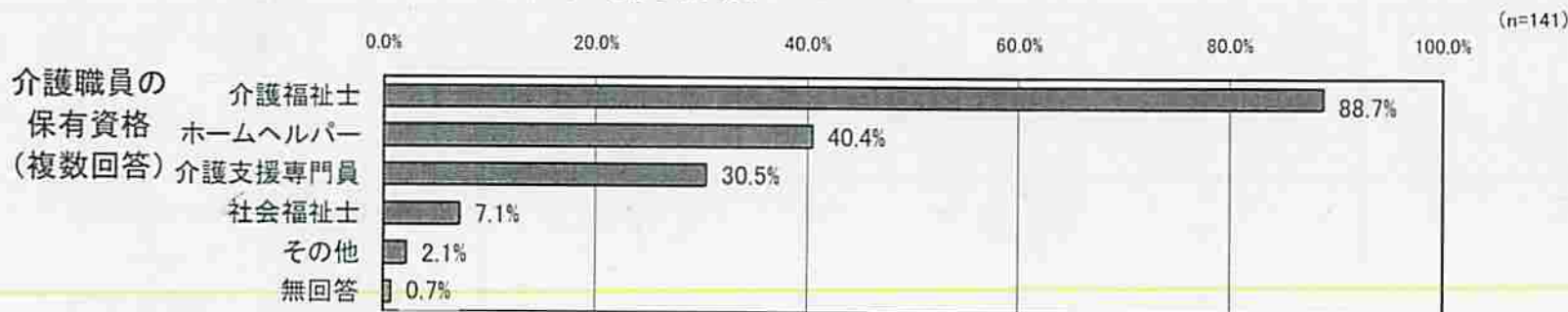
日時：平成22年11月5日～12月15日(事業実施7団体ごとに全国9ヶ所で実施)

参加者：事業実施7団体から推薦された介護職員141名

年齢：平均38.8歳(最大58歳・最小24歳)

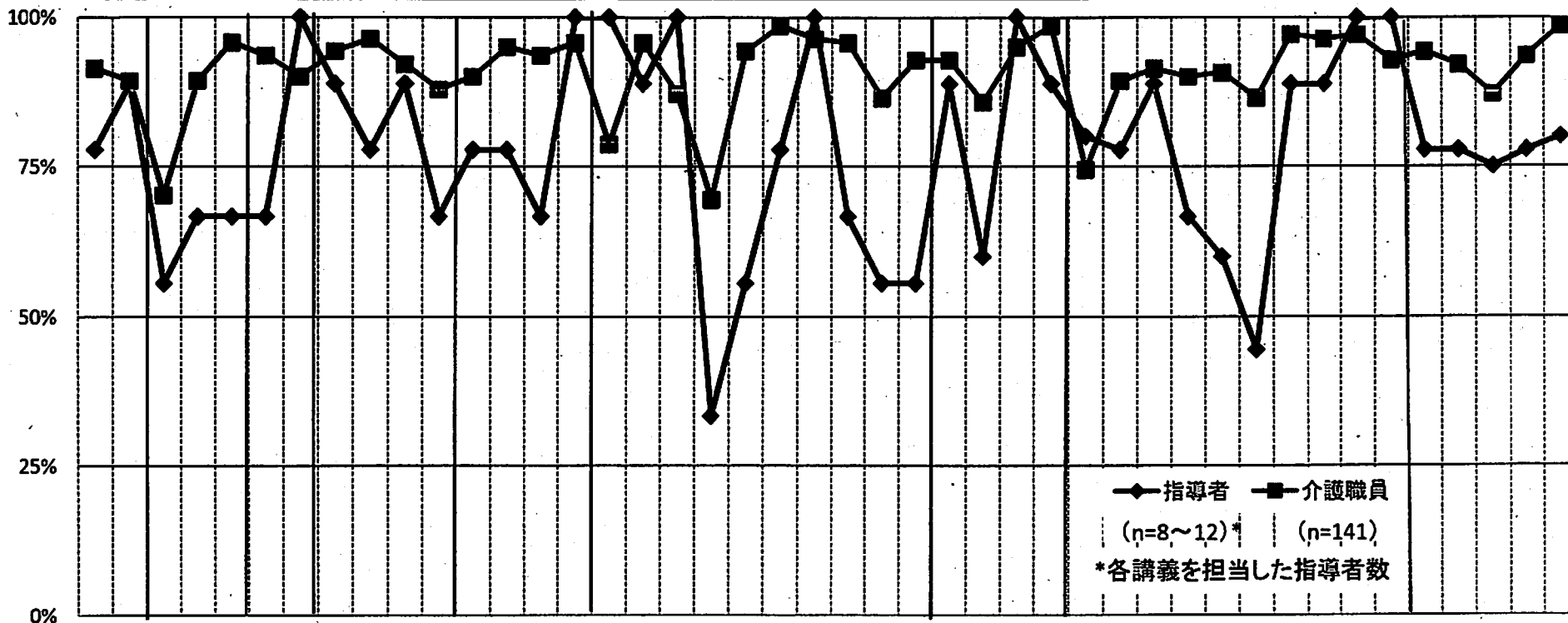
性別：男性42名(29.8%)・女性99名(70.2%)

保有資格：1人当たり平均資格数1.7



# 講義の理解度について:「介護職員が理解できる内容か」の回答比率

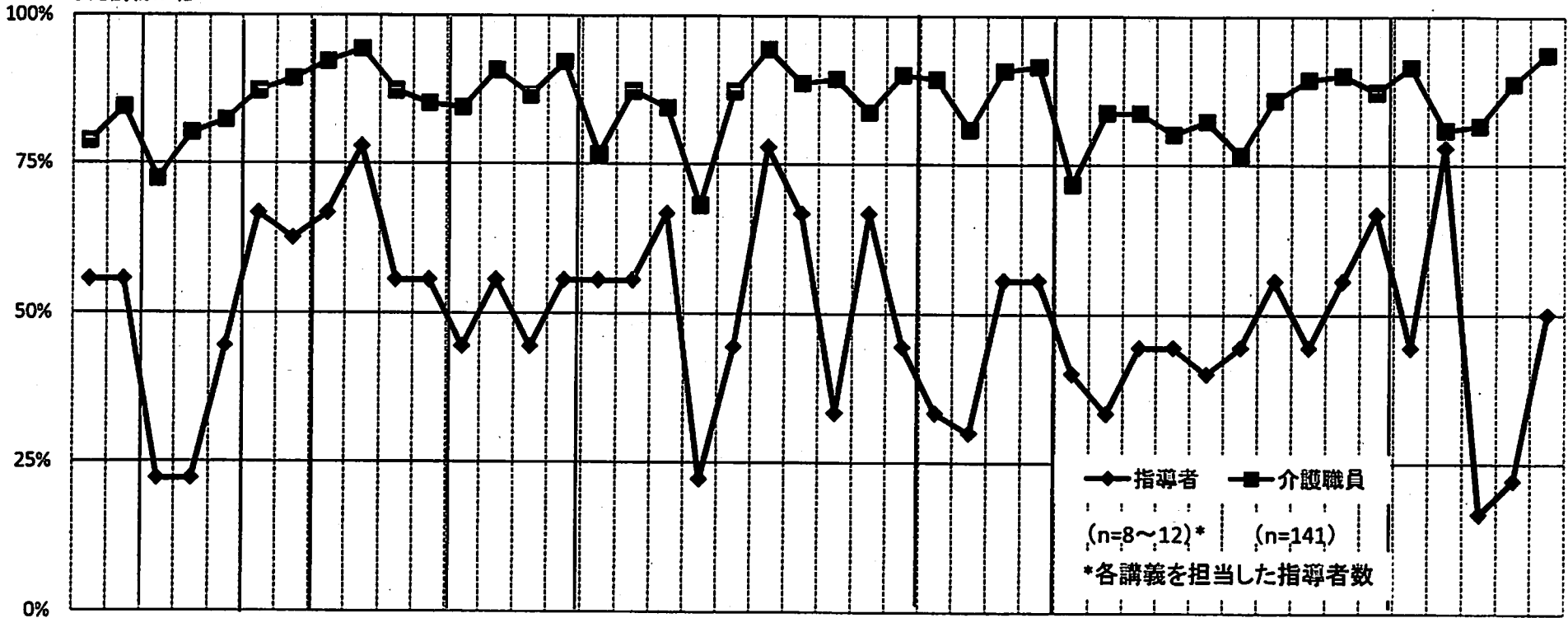
- 指導者からみた「介護職員が理解できる」に比べ、介護職員が「理解できた」と回答した割合のほうが高い
- 指導者では、「保健医療に関する制度」、「人工呼吸器と吸引」、「成人と小児の吸引の違い」、「たんの吸引の生じる危険、事後の安全確認」、「たんの吸引の急変事故発生時の対応と事前対策」、「成人と小児の経管栄養の違い」で、「介護職員が理解できる」と回答した割合が低い
- 介護職員では、「保健医療に関する制度」、「呼吸のしくみとはたらき」、「人工呼吸器と吸引」、「消化器系のしくみとはたらき」で「理解できた」と回答した割合が低い



報告及び記録  
 経管栄養に必要なケア  
 経管栄養の技術と留意点  
 器具・器材のしくみ、清潔の保持  
 急変・事故発生時の対応と事前対策  
 生じる危険、注入後の安全確認  
 事前説明と同意、事後の確認  
 利用者や家族の気持ちと対応  
 経管栄養に関する感染と予防  
 成人と小児の経管栄養の違い  
 経管栄養実施上の留意点  
 注入する内容に関する知識  
 経管栄養法とは  
 消化・吸収と消化器の症状  
 「経管栄養」消化器系のしくみとはたらき  
 報告及び記録  
 たんに伴うケア  
 吸引の技術と留意点  
 器具・器材のしくみ、清潔の保持  
 急変・事故発生時の対応と事前対策  
 生じる危険、事後の安全確認  
 呼吸器系の感染と予防  
 事前説明と同意、事後の確認  
 利用者や家族の気持ちと対応  
 成人と小児の吸引の違い  
 人工呼吸器と吸引  
 吸引とは  
 いつもと違う呼吸状態  
 「たんの吸引」呼吸のしくみとはたらき  
 急変状態について  
 体温上昇について  
 健康状態を知る項目  
 身体・精神の健康  
 減菌と消毒  
 療養環境の清潔、消毒法  
 職員の感染予防  
 感染予防  
 救急蘇生法  
 たんの吸引や経管栄養の安全な実施  
 チーム医療と介護職との連携  
 医行為に関する法律  
 保健医療に関する制度  
 医療の倫理  
 個人の尊厳と自立

# テキストの分かりやすさについて:「介護職員が分かりやすい記述か」の回答比率

- 指導者からみた「介護職員にとってわかりやすい」に比べ、介護職員の「わかりやすい」と回答した割合のほうが高い
- 指導者では、「保健医療に関する制度」、「医行為に関係する法律」、「人工呼吸器と吸引」、「経管栄養の技術と留意点」で、「わかりやすい」と回答した割合が低い
- 介護職員では、「保健医療に関する制度」、「呼吸のしくみとはたらき」、「人工呼吸器と吸引」、「消化器系のしくみとはたらき」、「成人と小児の経管栄養の違い」で「わかりやすい」と回答した割合が低い



報告及び記録  
 経管栄養に必要なケア  
 経管栄養の技術と留意点  
 器具・器材のしくみ、清潔の保持  
 急変・事故発生時の対応と事前対策  
 生じる危険、注入後の安全確認  
 事前説明と同意、事後の確認  
 利用者や家族の気持ちと対応  
 経管栄養に関係する感染と予防  
 成人と小児の経管栄養の違い  
 経管栄養実施上の留意点  
 注入する内容に関する知識  
 経管栄養法とは  
 消化・吸収と消化器の症状  
 「経管栄養」消化器系のしくみとはたらき  
 報告及び記録  
 たんに伴うケア  
 吸引の技術と留意点  
 器具・器材のしくみ、清潔の保持  
 急変・事故発生時の対応と事前対策  
 生じる危険、事後の安全確認  
 呼吸器系の感染と予防  
 事前説明と同意、事後の確認  
 利用者や家族の気持ちと対応  
 成人と小児の吸引の違い  
 人工呼吸器と吸引  
 吸引とは  
 いつもと違う呼吸状態  
 「たんの吸引」呼吸のしくみとはたらき  
 急変状態について  
 体温上昇について  
 健康状態を知る項目  
 身体・精神の健康  
 減菌と消毒  
 療養環境の清潔、消毒法  
 職員の感染予防  
 感染予防  
 救急蘇生法  
 たんの吸引や経管栄養の安全な実施  
 チーム医療と介護職との連携  
 医行為に関係する法律  
 保健医療に関する制度  
 医療の倫理  
 個人の尊厳と自立

# 講義時間の適切性について①

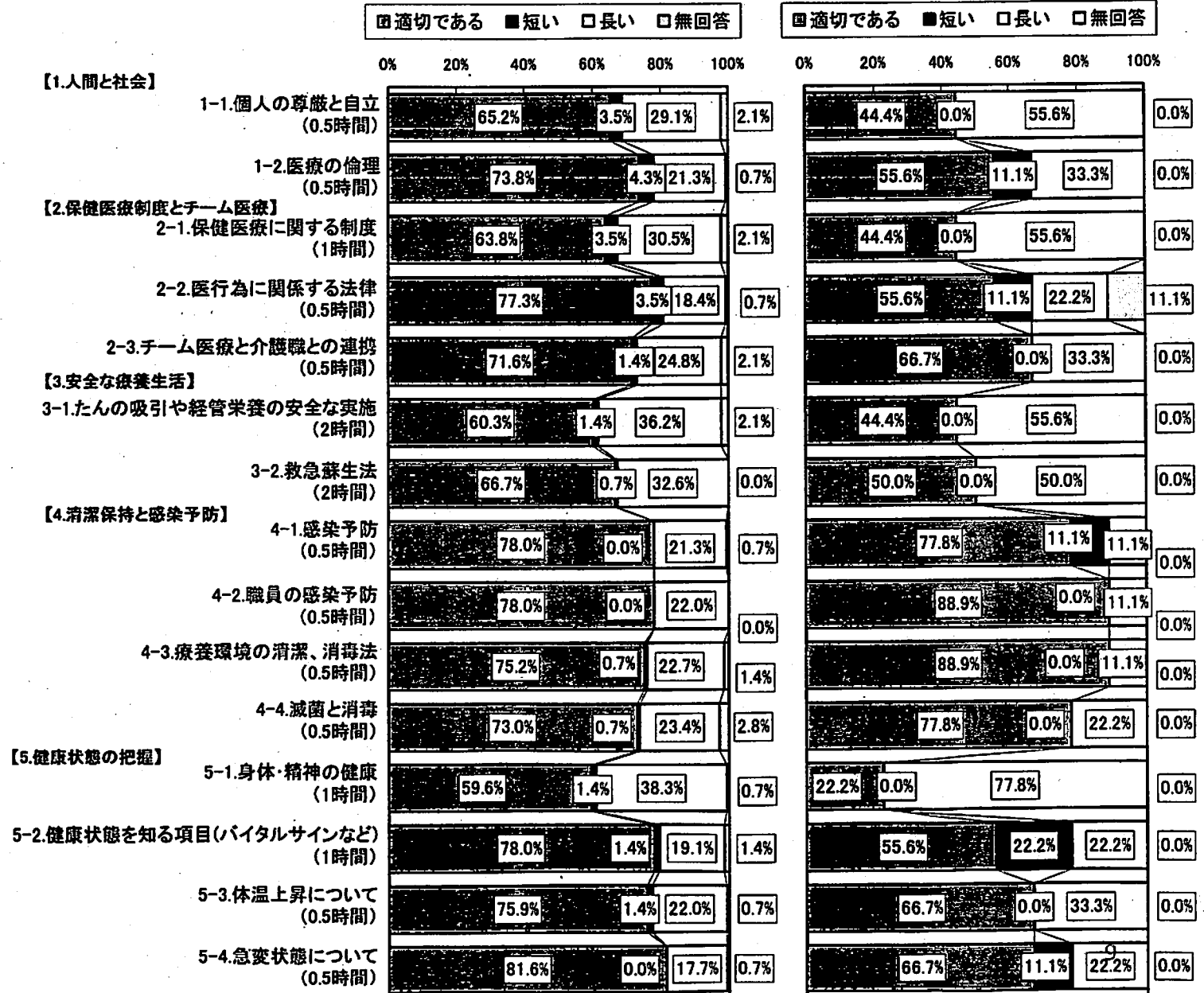
介護職員 (N=141)

指導者 (N=8~12)\*

\*各講義を担当した指導者数

○介護職員では、  
 ・「適切である」が6割を超えた項目が約8割であった。  
 ・「長い」と回答した割合が高い項目は、6-7「たんの吸引 事前説明(声かけ)と同意、事後の確認」、8-6「成人と小児の経管栄養の違い」、8-9「経管栄養 事前説明(声かけ)と同意、事後の確認」などであった。  
 ・「短い」と回答があった項目は、6-4「人工呼吸器と吸引」、8-1「消化器系のしくみとはたらき」などであった。

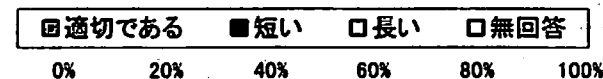
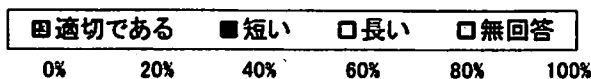
○指導者では、  
 ・項目ごとの評価にばらつきがあった。  
 ・「長い」と回答した割合が高い項目は、5-1「身体・精神の健康」、6-5「成人と小児の吸引の違い」などであった。  
 ・「短い」と回答した割合が高い項目は、6-4「人工呼吸器と吸引」であった。



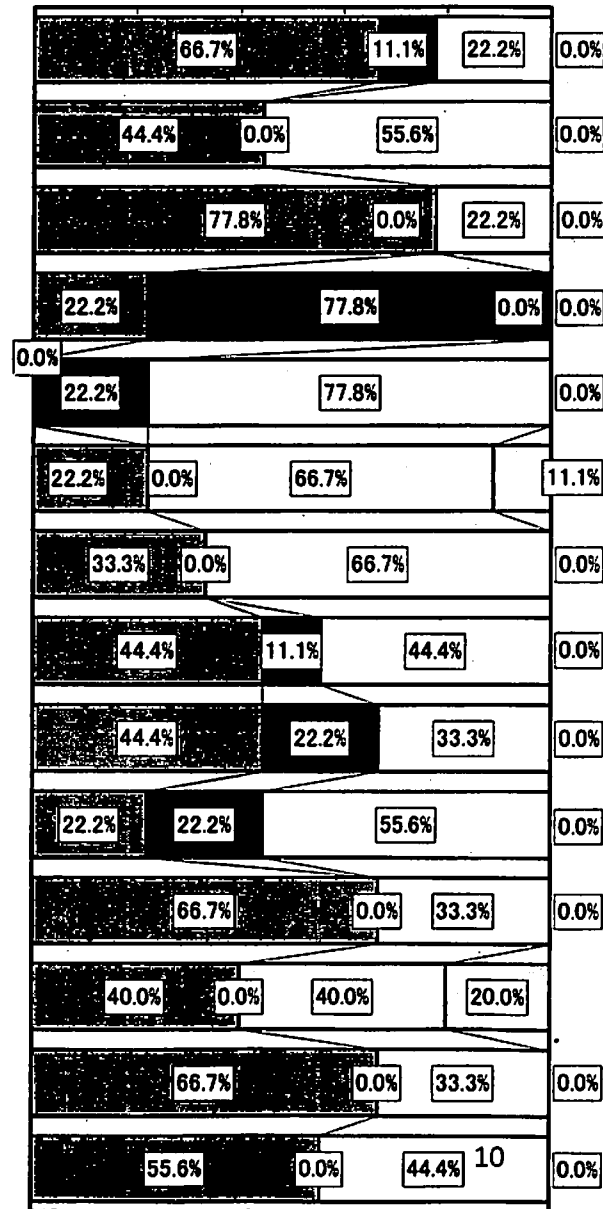
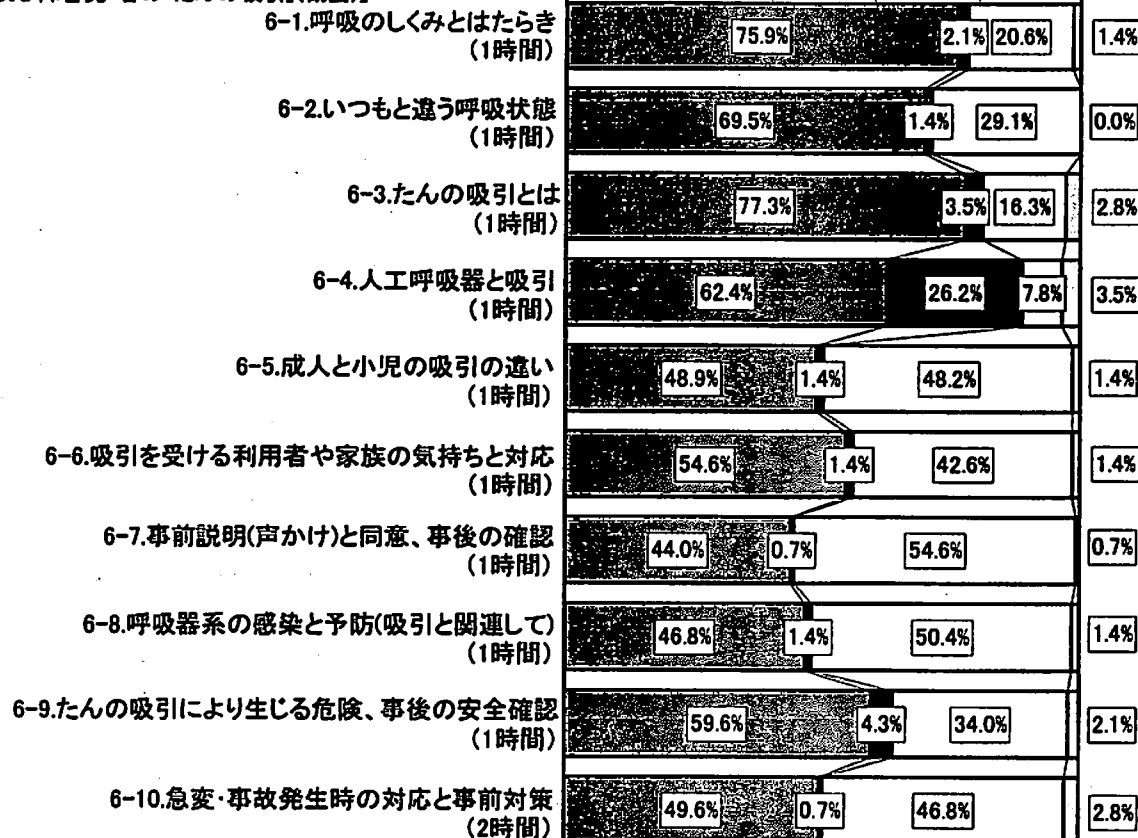
# 講義時間の適切性について②

介護職員 (N=141)

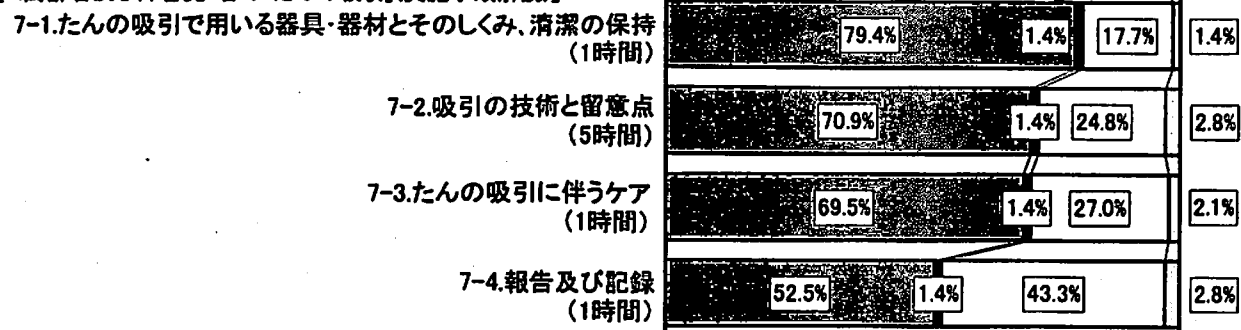
指導者 (N=8~12)\*  
\*各講義を担当した指導者数



【6.高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」(概論)】



【7.高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」(実施手順解説)】



# 講義時間の適切性について③

介護職員 (N=141)

指導者 (N=8~12)\*

\*各講義を担当した指導者数

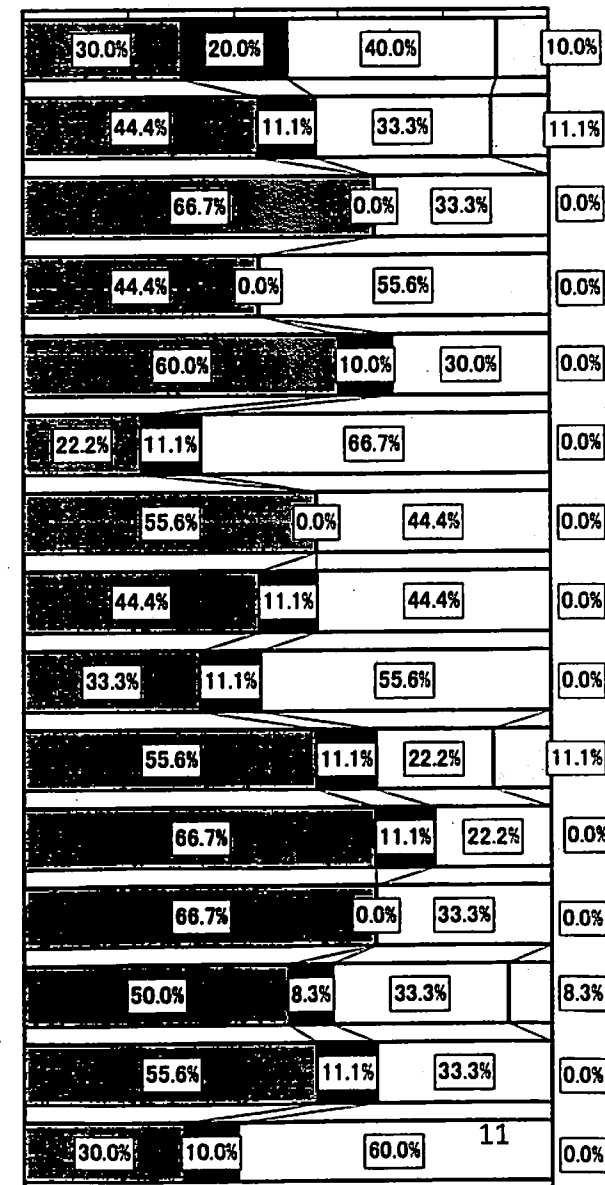
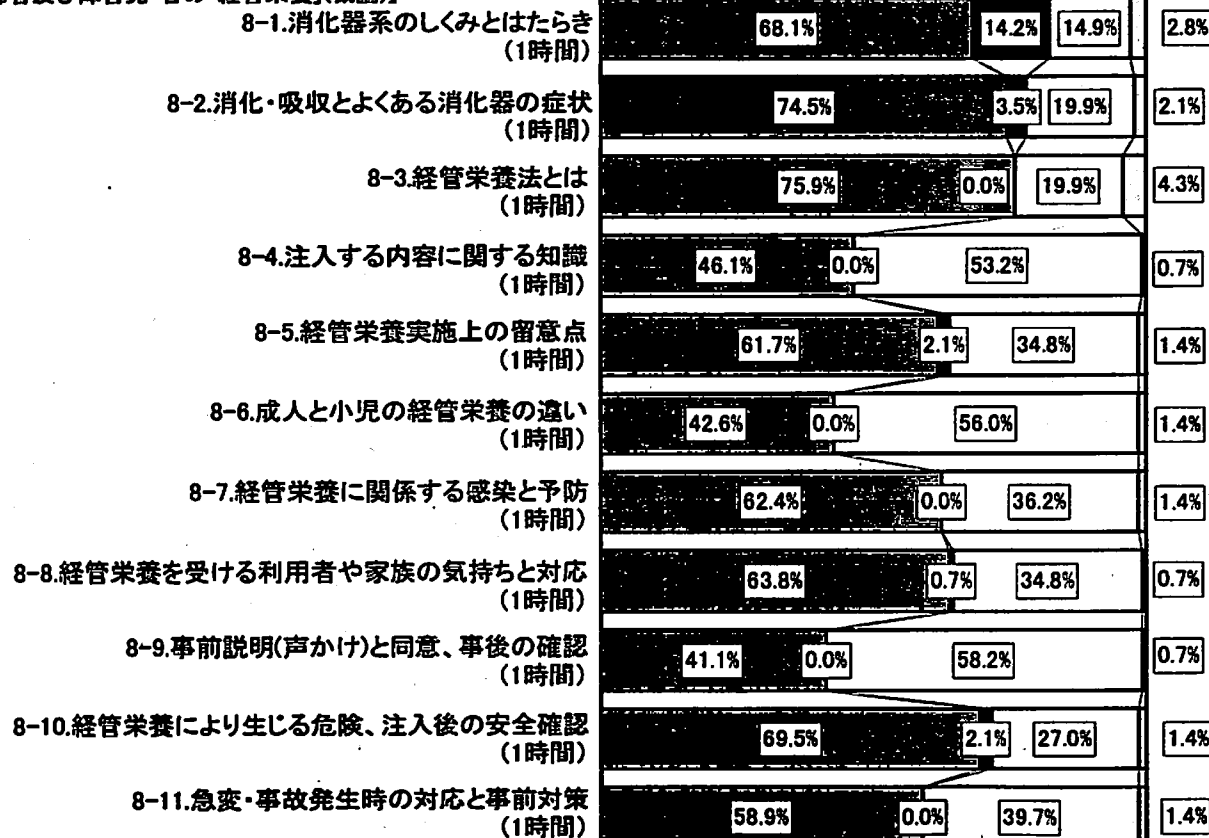
☐適切である ■短い □長い □無回答

☐適切である ■短い □長い □無回答

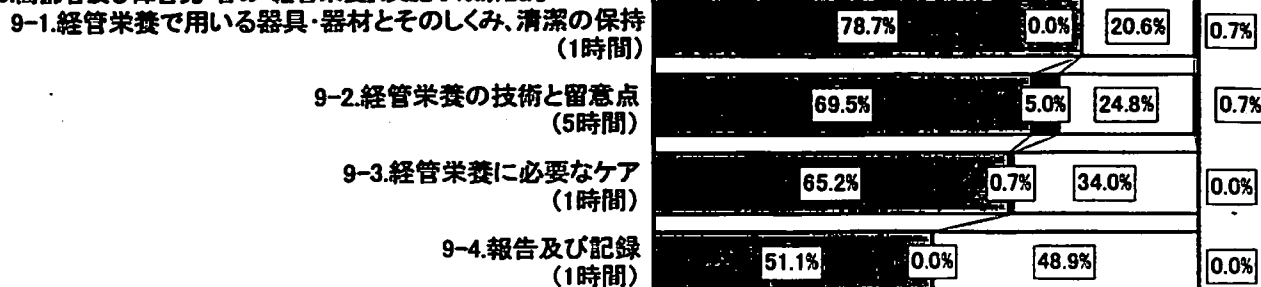
0% 20% 40% 60% 80% 100%

0% 20% 40% 60% 80% 100%

【8.高齢者及び障害児・者の「経管栄養」(概論)】



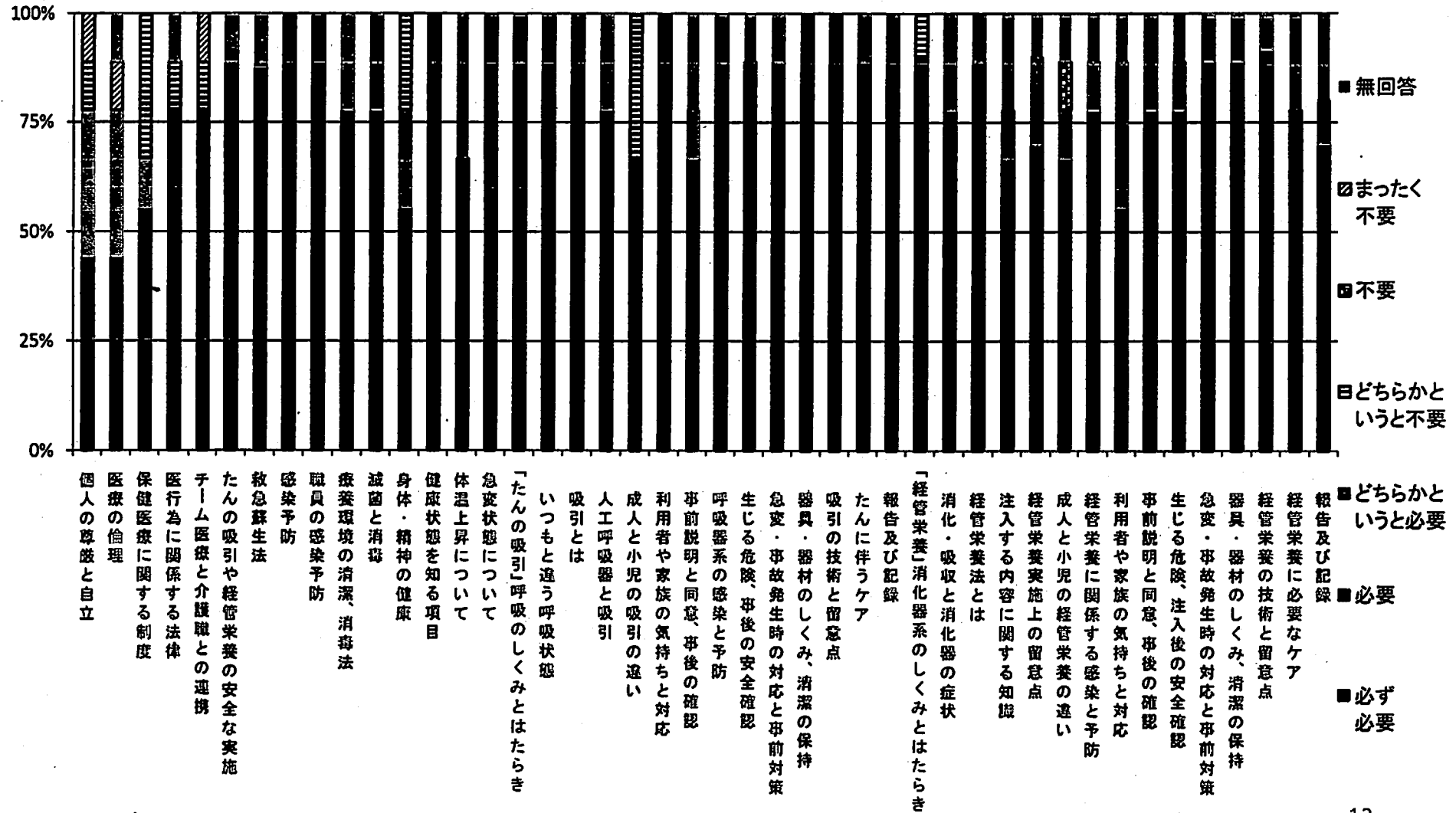
【9.高齢者及び障害児・者の「経管栄養」(実施手順解説)】



# 指導者からみた講義の必要性

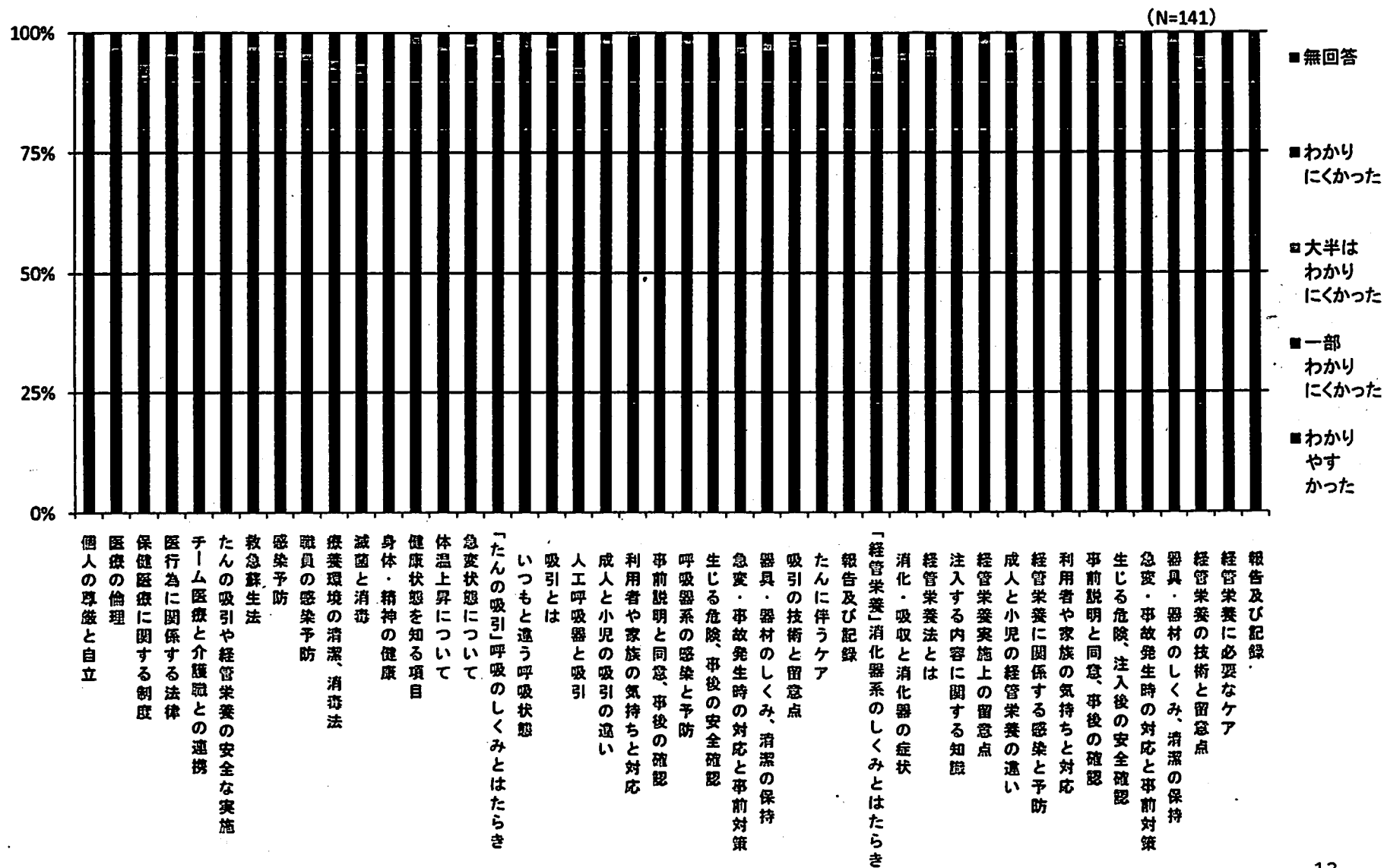
○「個人の尊厳と自立」、「医療の倫理」、「保健医療に関する制度」などの項目で、「どちらかというと不要」、「まったく不要」があった。  
 ○「成人と小児の吸引の違い」では、他の項目と比べ「どちらかというと不要」が多かった。

(N=8~12)\* \*各講義を担当した指導者数



# 介護職員からみた指導者の講義の評価について

○ 他の項目と比べ、「保健医療に関する制度」、「人工呼吸器と吸引」、「消化器系のしくみとはたらき」の項目で、「一部わかりにくかった」の割合が高かった。

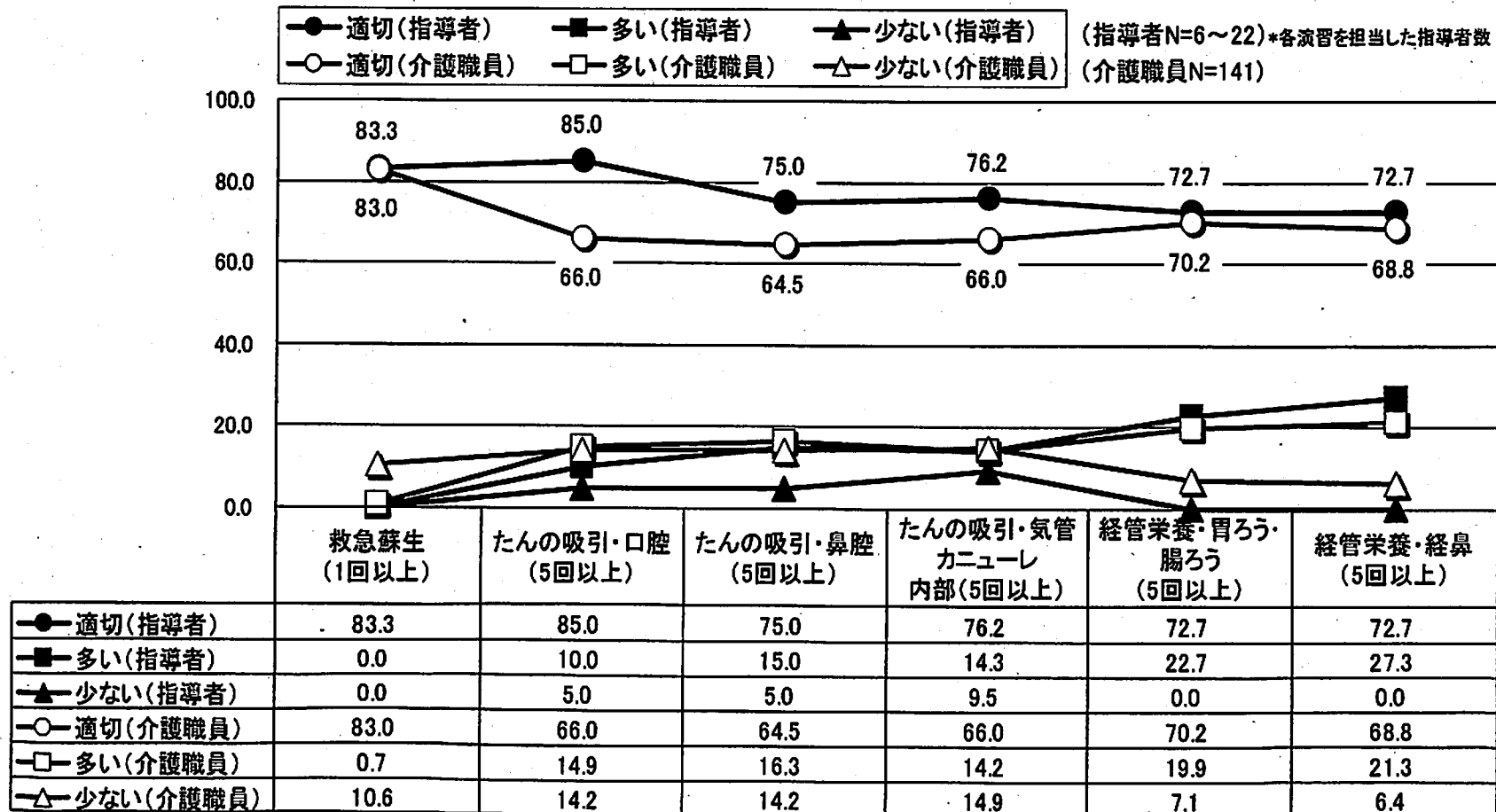




# 介護職員によるたんの吸引等の試行事業(不特定多数の者対象)における 基本研修について

演習のケアごとの所定回数について「適切」と回答した者が、指導者は7割以上・介護職員は6割以上であった。

演習所定回数の適切さ



## 介護職員によるたんの吸引等の試行事業(不特定多数の者対象)における評価①について

- ・評価①として、基本研修(50時間講義及びシミュレーター演習)における評価を行う。
- ・具体的な評価内容として、知識の確認(筆記試験)及び演習の指導者評価(プロセス評価票)をもとに、介護職員の知識と技術の習得状況を確認した。

### 知識の確認(筆記試験)

- 《基本方針》 介護職員が、利用者の心身の状態を正確に観察し、医師に報告し、その指示に基づいて、看護職員と連携しながら、たんの吸引及び経管栄養を安全、安楽かつ効果的に実施できる能力が評価されること
- 《出題形式》 客観式問題(四肢択一)
- 《出題数》 50問
- 《試験時間》 90分

### 指導者評価(プロセス評価票)

- 《基本方針》 介護職員が、たんの吸引及び経管栄養について、シミュレーターを用いて、効果的に演習でき、習得した技術が適正に評価されること
- 《評価方法》 介護職員が、吸引(口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部)、経管栄養(胃ろうまたは腸ろう・経鼻)のケアごとにシミュレーターでの演習を実施し、指導者がケアの実施の手引きに基づくプロセス評価票を用いて評価する

## 介護職員によるたんの吸引等の試行事業(不特定多数の者対象)における 評価①について

知識の確認(筆記試験)結果では、全体的な正答率は高かったものの、「保健医療に関する制度」「清潔保持と感染予防」「消化器系のしくみとはたらき」といった出題範囲の正答率が低かったことから、介護職員の日常業務において意識することが少ない分野について、さらに重点的な学習が必要と考えられる

### 知識の確認(筆記試験)結果

- ・受験者 : 介護職員141名
- ・正答率 : 平均値96.1% (最高値:100% 最低値:78%)
- ・正答率90%以下の出題範囲について、下記に抜粋

出題範囲	平均正答率
保健医療に関する制度	70.9%
清潔保持と感染予防(滅菌と消毒)	70.9%
消化器系のしくみとはたらき	82.3%
経管栄養(胃ろう部)に必要なケア	83.7%
口腔内のたんの吸引の技術と留意点(状態観察)	87.9%
経管栄養の注入する内容に関する知識	87.9%

評価①結果については、評価委員会(太田秀樹委員長)において審査後、知識の確認(筆記試験)の成績下位者は個別に再学習し、指導者からの口頭試問後に実地研修へと進行した。

## 介護職員によるたんの吸引等の試行事業(不特定多数の者対象)における 評価①について

- ・指導者評価(プロセス評価票)結果では、介護職員が手順通り実施できるようになるまでの演習回数に幅があることから、その実施には個人差が大きいと考えられる。
- ・ケアごとの手順通り実施できるまでの演習回数の相違については、その行為の難易度よりも演習の方法や順序によるものが影響していると考えられる。

### 指導者評価(プロセス評価)結果

ケアの内容	たんの吸引			経管栄養(流動食)	
	口腔内 (うち口鼻マスクまたは 鼻マスク装着者)	鼻腔内 (うち口鼻マスクまたは 鼻マスク装着者)	気管カニューレ 内部 (うち人工呼吸器装着者)	胃ろう・腸ろう (うち半固形)	経鼻
実施団体数	7 (2)	7 (1)	7 (3)	7 (1)	7
介護職員数	141 (26)	141 (7)	141 (42)	140 (6)	140
初回手順回数	7 (4)	5 (4)	6 (6)	6 (2)	7
実施演習回数	11 (5)	7 (5)	8 (7)	8 (5)	7

※ 初回手順回数とは、指導者評価(プロセス評価票)の各評価項目が「初めて」全て「手順通り実施」となった最大回数のこと

※ 実施演習回数とは、指導者評価(プロセス評価票)が実施された演習回数の最大回数のこと

# 介護職員によるたんの吸引等の試行事業(不特定多数の者対象)における 実地研修について (進行中)

ケアごとの実施率については、気管カニューレ内部のたんの吸引(未着手59.6%)及び経鼻経管栄養(未着手42.2%)が他ケアと比較して低率で進行している。

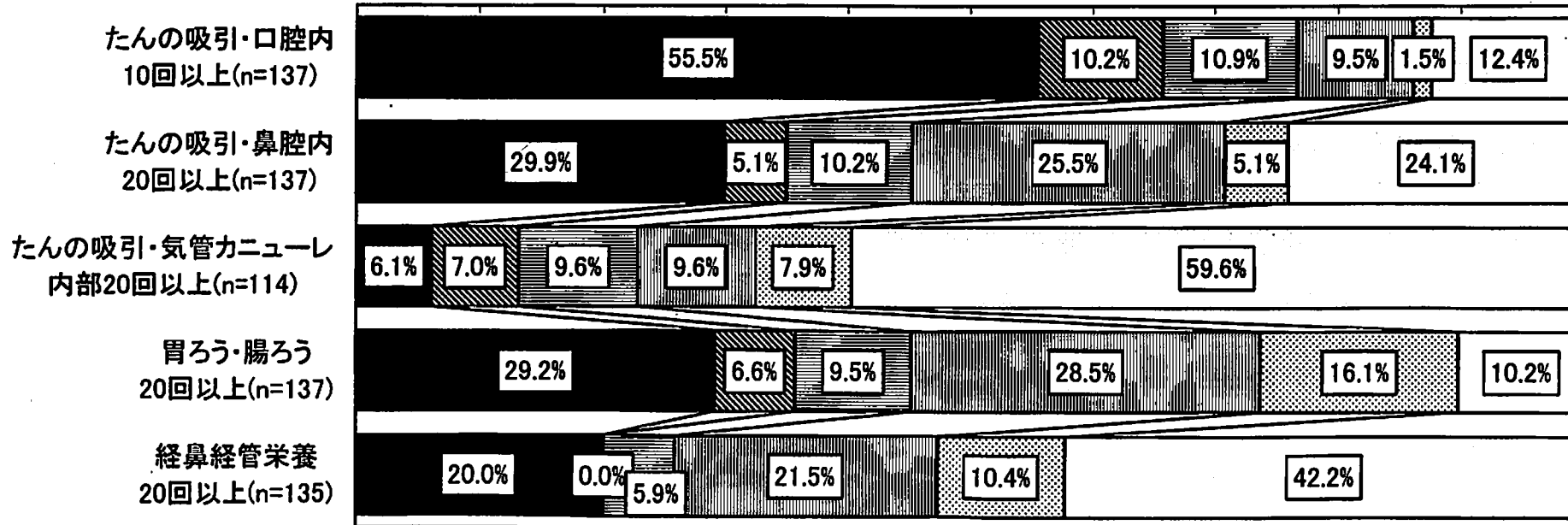
日時：平成23年1月から2月末日目途 (進行中)

参加者：基本研修を修了し、評価①で審査された介護職員141名

内容：介護職員が医師の指示のもとで、ケア対象者へ、指導看護師の指導を受けながら、  
たんの吸引及び経管栄養を実施

ケアごとの実地研修実施率  
(2月14日時点)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■100%以上 ■80-99% ■50-79% ■20-49% □1-19% □未着手(0%)

**介護職員等によるたんの吸引等の試行事業  
(特定の者対象)の概要と実施状況  
(中間報告)**

# 1. 試行事業の実施法人

## 特定非営利活動法人ALS/MNDサポートセンターさくら会概要

法人名	ALS/MNDサポートセンターさくら会 (MND=運動ニューロン疾患)
法人種別	特定非営利活動法人
創設	1993年5月(平成5年)
設立	2004年6月(平成16年)
主な加盟施設・事業者	重度訪問介護事業所
加盟数	【さくら会友の会】 25事業所(平成21年6月30日現在) NPO法人さくら会に重度訪問介護従業者養成研修を委託している都内近県の事業所の集まり
組織変遷	平成 5年5月 人工呼吸器を装着した在宅療養者に関する介護者の技術向上と、新たに在宅療養を始める人達への支援のため、介護人3名と設立。 平成16年6月 NPO法人格取得。
備考 (さくら会提出資料より)	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 東京にあるたんの吸引を実施している重度訪問介護事業所(さくら会友の会)の職員に対する重度訪問介護従業者養成研修を主として実施。</li><li>◆ 介護職員に対するたんの吸引を実施するための研修については、平成16年から実施しており(重度訪問介護従業者養成研修の制度化以降についてはその中で実施)、これまでに約1,000人の研修修了者を養成。</li><li>◆ 東京都における在宅人工呼吸器装着者249人のうち97人が、さくら会友の会の事業所による重度訪問介護を利用。</li></ul>

### <重度訪問介護>

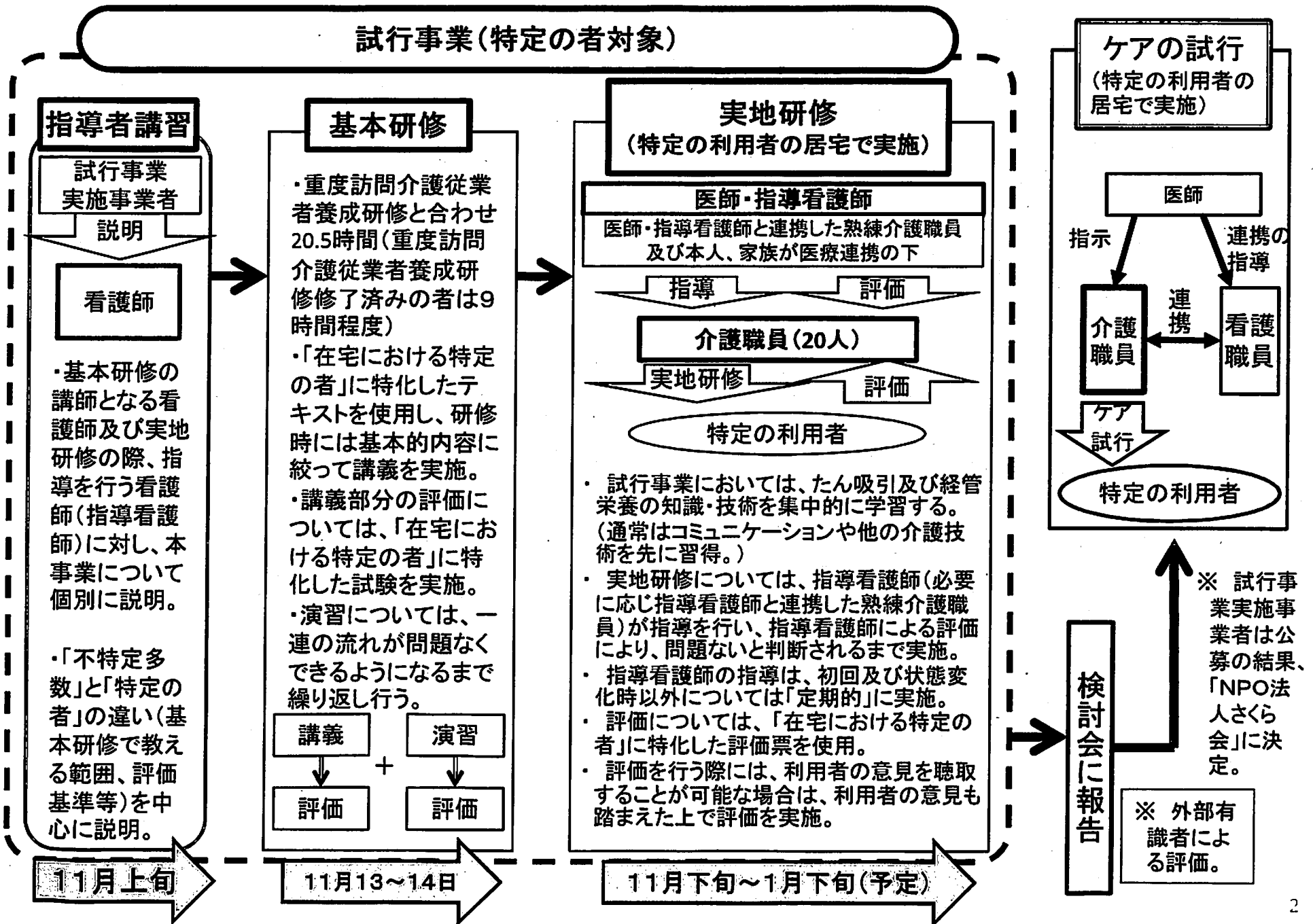
障害者自立支援法に基づくサービスの1つであり、日常生活全般に常時の支援を要する重度の肢体不自由者に対して、

比較的長時間にわたり、日常生活に生じる様々な介護の事態に対応するための見守り等の支援とともに、身体介護や家事援助を総合的かつ断続的に提供するサービス

【従事者要件】介護福祉士、介護職員基礎研修課程修了者、居宅介護(訪問介護)従業者養成研修修了者、

## 2. 試行事業の概要

### 試行事業(特定の者対象)





### 3. 試行事業の実施状況

#### (1) 基本研修の実施概要

##### ア 基本研修

●日 時：平成22年11月13日（土）10：00～12：00

14日（日） 9：30～17：30

●場 所：東京総合保健福祉センター江古田の森（中野区）

●参加者：20名

●基本研修の研修カリキュラム（重度訪問介護従業者養成研修の一環として実施）

※ 11/13の講義については、既に重度訪問介護従業者養成研修課程を修了している者については免除。

(11/14の講義については、経管栄養など新しい内容が盛り込まれていることから全員受講している。)

試行事業研修日程

日付	時間割	講義 時間	科目名	内容	講師
11月13日	10:00 ~ 12:00	2	重度の肢体不自由者の地域生活等に関する知識	・重度の肢体不自由者の地域生活等に関する知識	大学講師 (教育福祉学科)
	13:00 ~ 14:00	1	基礎的な介護技術に関する知識		
	14:10 ~ 15:10	1	コミュニケーションの技術に関する知識(1)		
	15:20 ~ 16:20	1	コミュニケーションの技術に関する知識(2)		
11月14日	9:30 ~ 12:30	3	医療的ケアを必要とする重度訪問介護利用者の障害及び支援に関する講義(1) 緊急時の対応及び危険防止に関する知識(1)	・在宅における感染防止対策 ・経管栄養について ・在宅人工呼吸器生活者の生活実態のケア	大学教授 (看護学科)
	13:15 ~ 16:15	3	医療的ケアを必要とする重度訪問介護利用者の障害及び支援に関する講義(2) 緊急時の対応及び危険防止に関する知識(2)	・呼吸の仕組みと人工呼吸器の仕組み ・気管切開と人工換気 ・人工呼吸器装置中の利用者のたん吸引	大学講師 (看護学科)
	16:30 ~ 17:30	1	吸引・経管の栄養の障害等	吸引・経管の栄養の障害等	看護師
	17:40 ~ 18:10		テスト	テスト	
11月14日 ～ 11月13日	実習	3.5	基礎的な介護と重度の肢体不自由者とのコミュニケーション技術に関する実習		
		2	外出時の介護技術に関する実習		
		3	重度の肢体不自由者の介護サービス提供現場での実習		
合 計		20.5			

※ 太枠で囲っている部分が、介護職員による実行為の実施に関する研修（合計9時間）

※ 本日程については、さくら会のカリキュラム表から作成。

##### イ 実地研修

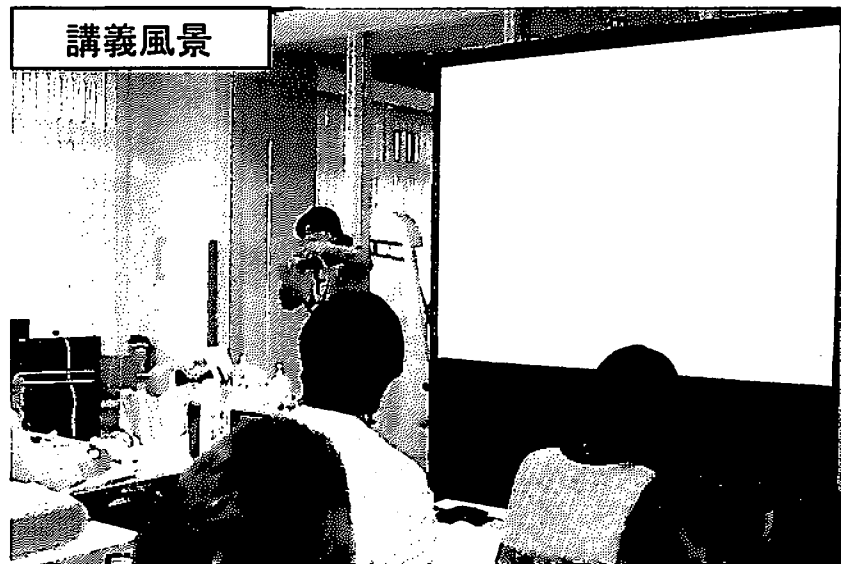
●日 時：平22年11月下旬～

●場 所：サービス利用者（障害者）の居宅

●参加者：サービス利用者（障害者）：8名

介護職員：20名

# さくら会試行事業(基本研修)実施風景 (平成22年11月14日)



## (2) 基本研修の参加介護職員の属性 (参加総数20名)

【性別】 男性5名 (25.0%)、女性15名 (75.0%)

【平均年齢】 31.9歳 (最年少18歳、最年長62歳)

【保有資格 (複数回答有)】

- ・ 介護福祉士 4名 (20.0%)
- ・ ヘルパー2級 7名 (35.0%)
- ・ 重度訪問介護従業者養成研修修了者 10名 (50.0%)
- ・ 資格無し 2名 (10.0%)

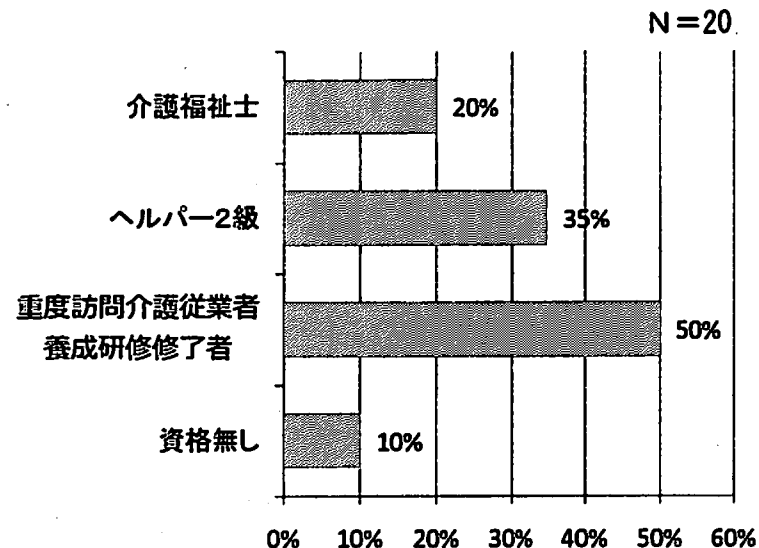
【所属事業所類型 (複数回答有)】

- ・ 居宅介護事業所 (障害) 1名 (5.0%)
- ・ 重度訪問介護事業所 (障害) 18名 (90.0%)
- ・ 訪問介護事業所 (高齢者) 3名 (15.0%)
- ・ その他 1名 (5.0%)

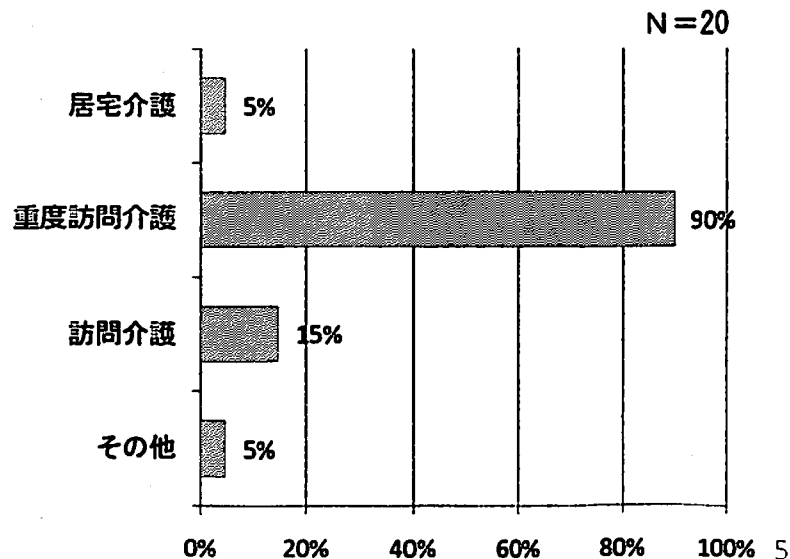
【介護職員としての経験年数 (平均)】

2.5年 (最長7年、最短0年)

保有資格の状況 (複数回答有)



所属事業所類型の状況 (複数回答有)



### (3) 指導看護師の属性 (総数 19名)

【性別】 男性0名 (0%)、女性19名 (100%)

【平均年齢】 47.7歳 (最年少34歳、最年長65歳)

【保有資格 (複数回答有)】

- ・ 医師 0名 (0%)
- ・ 看護師 19名 (100%)
- ・ 保健師、助産師 1名 (5.3%)

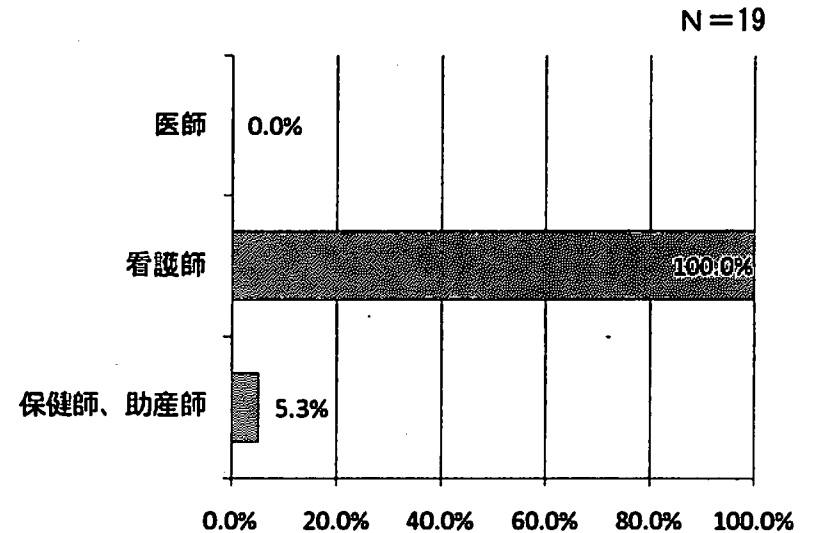
【所属事業所類型 (複数回答有)】

- ・ 病院、診療所 2名 (10.5%)
- ・ 訪問看護ステーション 16名 (84.2%)
- ・ その他： 1名 (5.3%)

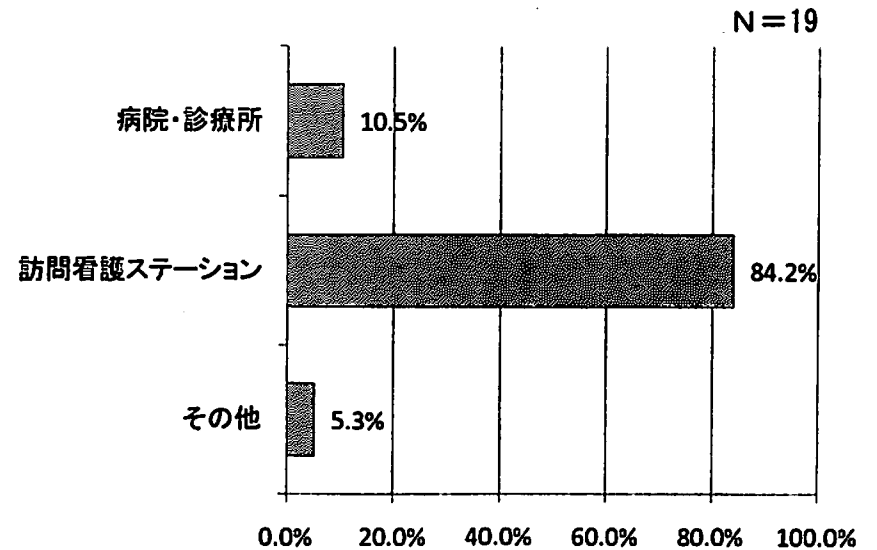
【経験年数 (平均)】

20.5年 (最長45年、最短10年)

保有資格の状況 (複数回答有)



所属事業所類型の状況 (複数回答有)



#### (4) 基本研修（講義）の実施状況

- 重度訪問介護従業者養成研修（20.5時間）のうちの一部（9時間）においてたんの吸引・経管栄養に係る研修を実施した。
- 終了後、研修受講者に対し、各講義について、講義内容や講義時間等について、指導者及び介護職員の両方にアンケートを行った。

#### ア. 基本研修アンケート結果概要

##### <指導者アンケート結果概要>

以下の講義内容について、各講義を行った講師（各1名）にアンケートを行った。

講義内容
重度の肢体不自由者の地域生活等に関する知識
呼吸の仕組みと人工呼吸器の仕組み
気管切開と人工換気
在宅における感染防止対策
人工呼吸器装着中の利用者のたんの吸引
経管栄養について
在宅人工呼吸器生活者の生活実態とケア

##### ①受講者の理解度：

「在宅における感染防止対策」のみ「どちらとも言えない」その他は全て「理解できる」であった。

##### ②テキストのわかりやすさ：

全て「わかりやすい」であった。

##### ③講義時間：

全て「適切」であった。

##### ④講義の必要性：

「呼吸の仕組みと人工呼吸器の仕組み」が「必要」、「在宅人工呼吸器生活者の生活実態とケア」が「どちらかという必要」の他は「必ず必要」であった。

## <介護職員アンケート結果概要>

### ①講義内容について理解できたか：

「理解できた」が概ね9割、「まあまあ理解できた」も含めるとほぼ全員。

### ②テキストのわかりやすさ：

「わかりやすい」が9割以上、「まあまあわかりやすい」も含めるとほぼ全員

### ③講師の教え方のわかりやすさ：

「わかりやすい」が概ね9割、「まあまあわかりやすい」も含めるとほぼ全員

### ④講義時間：

「適切」が8割以上、「長い」が5%～20%

### ⑤全体としての満足度：

「大変満足」が概ね9割、「まあまあ満足」も含めるとほぼ全員

### ①理解度

講義	理解できた	まあまあ理解できた	あまり理解できなかった	全く理解できなかった	合計
重度の肢体不自由者の地域生活等に関する知識	9 (90%)	1 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	10 (100%)
呼吸の仕組みと人工呼吸器の仕組み	19 (95%)	1 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	20 (100%)
気管切開と人工換気	19 (95%)	1 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	20 (100%)
在宅における感染防止対策	20 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	20 (100%)
人工呼吸器装着中の利用者のたんの吸引	19 (95%)	1 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	20 (100%)
経管栄養について	18 (90%)	2 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	20 (100%)
在宅人工呼吸器生活者の生活実態とケア	18 (90%)	1 (5%)	1 (5%)	0 (0%)	20 (100%)

## ②テキストのわかりやすさ

(単位：人)

講義	わかりやすい	まあまあわかりやすい	少しわからなかった	わかりにくい	合計
重度の肢体不自由者の地域生活等に関する知識	10(100%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	10(100%)
呼吸の仕組みと人工呼吸器の仕組み	20(100%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	20(100%)
気管切開と人工換気	20(100%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	20(100%)
在宅における感染防止対策	19(95%)	1(5%)	0(0%)	0(0%)	20(100%)
人工呼吸器装着中の利用者のたんの吸引	20(100%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	20(100%)
経管栄養について	19(95%)	1(5%)	0(0%)	0(0%)	20(100%)
在宅人工呼吸器生活者の生活実態とケア	19(95%)	0(0%)	1(5%)	0(0%)	20(100%)

## ③講義時間

(単位：人)

講義	適切	長い	短い	合計
重度の肢体不自由者の地域生活等に関する知識	8(80%)	2(20%)	0(0%)	10(100%)
呼吸の仕組みと人工呼吸器の仕組み	19(95%)	1(5%)	0(0%)	20(100%)
気管切開と人工換気	19(95%)	1(5%)	0(0%)	20(100%)
在宅における感染防止対策	20(100%)	0(0%)	0(0%)	20(100%)
人工呼吸器装着中の利用者のたんの吸引	19(95%)	1(5%)	0(0%)	20(100%)
経管栄養について	20(100%)	0(0%)	0(0%)	20(100%)
在宅人工呼吸器生活者の生活実態とケア	18(90%)	1(5%)	1(5%)	20(100%)

## ④講師の説明のわかりやすさ

(単位：人)

講義	わかりやすい	まあまあ わかりやすい	少しわからな かった	全くわからな かった	合計
重度の肢体不自由者の地域生活等に関する知識	10(100%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	10(100%)
呼吸の仕組みと人工呼吸器の仕組み	19(95%)	1(5%)	0(0%)	0(0%)	20(100%)
気管切開と人工換気	19(95%)	1(5%)	0(0%)	0(0%)	20(100%)
在宅における感染防止対策	20(100%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	20(100%)
人工呼吸器装着中の利用者のたんの吸引	20(100%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	20(100%)
経管栄養について	20(100%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	20(100%)
在宅人工呼吸器生活者の生活実態とケア	18(90%)	1(5%)	1(5%)	0(0%)	20(100%)

## ⑤基本研修全体としての満足度

(単位：人)

講義	大変満足	まあまあ 満足	普通	やや不満	不満	合計
重度の肢体不自由者の地域生活等に関する知識	9(90%)	1(10%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	10(100%)
呼吸の仕組みと人工呼吸器の仕組み	18(90%)	2(10%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	20(100%)
気管切開と人工換気	18(90%)	2(10%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	20(100%)
在宅における感染防止対策	19(95%)	1(5%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	20(100%)
人工呼吸器装着中の利用者のたんの吸引	20(100%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	20(100%)
経管栄養について	18(90%)	2(10%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	20(100%)
在宅人工呼吸器生活者の生活実態とケア	18(90%)	1(5%)	1(5%)	0(0%)	0(0%)	20(100%)



## (5) 基本研修（演習）の実施状況

- 基本研修（講義）修了後、シミュレーターを使用し、たんの吸引及び経管栄養について、それぞれ演習を実施した。
- 演習の評価に当たっては、たんの吸引・経管栄養の各行為を区分し、各回において、それぞれの区分について指導者（看護師）及び介護職員によりア～ウの3段階による評価を行った。

※ 評価に当たっては、以下の区分及び評価方法で行った。（評価票の例はP 1 2 参照。）

### ■ 手引きの手順における区分数

- ・ たんの吸引（口腔内・鼻腔内）：12区分
- ・ たんの吸引（気管カニューレ内部）：15区分
- ・ 経管栄養（胃ろう・経鼻）：11区分

### ■ 評価方法

- ア：手順通りに実施できている
- イ：細目レベルで、手順を抜かしたり間違えた
- ウ：手順を抜かした

# (例) たんの吸引(口腔内)の評価票

<口腔内吸引について記入してください>

基本研修(演習)用  
(指導者記入用)

達成度	ア 手順の半端通りに実施できている。 イ 留意事項に記述されている項目レベルで、抜かしたり間違えた。 ウ 手順について抜かし
-----	--

回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
月日						
時間						
手続	指導・評価のポイント	達成度記入欄				
準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>手を洗う。</li> <li>医師・訪問看護の指示を確認する。</li> <li>利用者本人に体位を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手洗いは「アルプス一万尺」を一曲歌うくらいの時間</li> <li>ここまでは、ケアの前に済ませておきます</li> </ul>				
①	利用者本人から吸引の依頼を受ける、あるいは、利用者の意思を確認する。口の周囲、口腔内を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人の同意はあるか。意思を確認しているか。</li> <li>声をかけているか。</li> <li>必要性のある時だけ行っているか。過剰に吸引を行っているか。</li> <li>効果的にたんを吸引できる体位か。</li> <li>唾液、出血、腫れ、乾痺などのチェックしたか。</li> </ul>				
②	吸引カテーテルを接続管につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>衛生的であるか。</li> <li>感染予防の知識があるか。</li> <li>必要時手をアルコール消毒をしたか。</li> </ul>				
③	吸引カテーテルを不潔にならないように取り出し、吸引器のスイッチを入れる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>衛生的に、器具の取扱いができていないか。</li> <li>カテーテルの先端をあらかじめぶつけていないか</li> </ul>				
④	消毒液に浸かっている場合の吸引カテーテルは水を吸って外側を洗い直す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>消毒液を十分に洗ったか。よく水を切ったか</li> <li>吸引圧の確認をしているか。(毎回は必要ない)</li> </ul>				
⑤	「吸引しますよ」と声をかける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人に合図を送り、心の準備をさせているか。</li> </ul>				
⑥	吸引カテーテルを口腔内に入れる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>静かに挿入し、口腔内の分泌物を吸引できたか。あまり挿入していないか。</li> </ul>				
⑦	使用済み吸引カテーテルは外側をティッシュで拭き取った後、水を吸って内側を洗い直す。(カテーテルをはずし所定の容器に戻す。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>手順を間違えていないか。</li> <li>消毒液や水道水を汚していないか。</li> <li>びんの液面を思いすぎているか。</li> <li>カテーテルに分泌物が残っていないか。</li> </ul>				
⑧	利用者に吸引が終わったことを告げ、たんがとれたかを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人の意思を確認しているか。たんがとれ切れていない場合はもう一回繰り返すかを聞いているか。</li> <li>痛みをあたえず、吸引できたか。</li> <li>吸引したたんの量・色・性状を見て、たんに異常はないか確認しているか。</li> <li>(異常があった場合、家族や看護師、医師に報告したか。緊急の場合は発見につながる。)</li> </ul>				
⑨	吸引器のスイッチを切る。(吸引終了)	<ul style="list-style-type: none"> <li>吸引器の機械音は、吸引が終わったからできるだけ早く消したい。</li> </ul>				
⑩	抜片付けを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>手早く片づけているか。</li> <li>吸引びんの汚物は適宜捨てる。</li> </ul>				
⑪	消毒液の液の残りが少なければ取り換える	<ul style="list-style-type: none"> <li>消毒液や水道水は足りず、ビンごと取り換える(最低8時間おき)</li> </ul>				
⑫	評価票に記入する。ヒヤリハットがあれば報告する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録し、ヒヤリハットがあれば報告したか。(ヒヤリハットは業務の後に記録する。)</li> </ul>				
アの回数		㉓	㉔	㉕	㉖	㉗
※ 手順の手順を抜かし、間違えた内容を具体的に記述してください。						

※ 利用者による評価票(アンケート)評価を行うに当たって利用者の意見の確認が特に必要な点

- 基礎まで吸い込んでいないか
- カテーテルを回したり、動かしながら吸引しているか
- 本人の指示に従っているか 本人が了解しない方法で行っていないか
- しつこく何度も吸引しすぎているか。

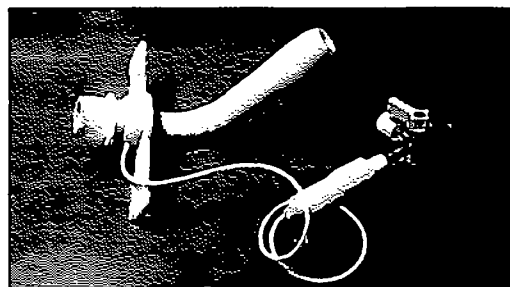
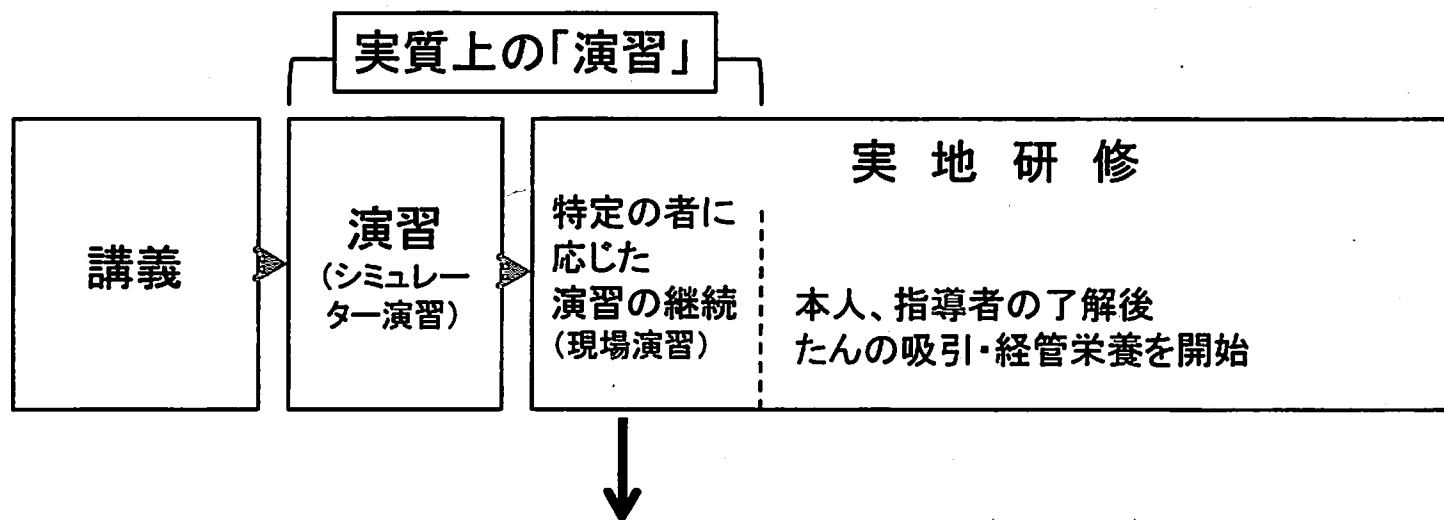
留意点

- 本人の利用者における個別の留意点 身体的特徴やアレルギー等について、把握した上でケアを行うこと
- ※ 留意点については別途「ケアワークブック」に記載すること。

- 演習（シミュレーター演習）については、当該行為のイメージをつかむこと（手順の確認等）を目的に、演習の実施回数は、たんの吸引については、口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部についてそれぞれ最低2回ずつ、経管栄養については、胃ろう（又は腸ろう）、経鼻についてそれぞれ最低1回ずつとした。

※ なお、すでに担当する利用者が決まっており、その方に必要ないケアの種類について演習を省略した参加者がいたため、後日追加演習を行うこととする。

- 特定の者対象の実地研修では、実地研修の序盤においては、実際に利用者の自宅において、看護師や熟練した介護職員が行うたんの吸引等を見ながら利用者ごとの手順に従って演習を継続（現場演習）し、利用者本人及び指導看護師の理解が取れた時点で、実際に利用者に対するたんの吸引等を実施する。



※ 各利用者宅には、本人の使用しているカニューレと同型のカニューレやペットボトルで製作した経管栄養シミュレーターが置いてあり、演習はその機器を利用して行う。

## ア. 評価票結果概要（シミュレーター演習）

＜演習において全区分が「ア」となった回数の状況＞【指導者評価】

（単位：人）

		1回目	2回目	全部アになっていない者	合計
たんの吸引	口腔内	12 (60%)	6 (30%)	2 (10%)	20 (100%)
	鼻腔内	12 (60%)	2 (10%)	6 (30%)	20 (100%)
	気管カニューレ内部	7 (35%)	7 (35%)	6 (30%)	20 (100%)
経管栄養	胃ろう	17 (85%)	0 (0%)	3 (15%)	20 (100%)
	経鼻	15 (75%)	0 (0%)	3 (15%)	18 (100%)

※ シミュレーター演習の後も、利用者宅において現場演習を実施し、本人・家族・指導看護師の了解後、利用者へのたんの吸引・経管栄養を開始する。

## (6) 基本研修（講義）内容の理解度の確認（テスト）

- 基本研修終了後、実地研修に進むに当たって、講義内容の理解度を確認するためたんの吸引や経管栄養の実施に当たって必要となる基本的知識についてのテストを行った。
- 内容が基本的事項であることを踏まえ、合格ラインについては9割に設定することとした。

### <試験方法>

- ・ 出題形式：客観式（四肢択一）
- ・ 出題数：20問
- ・ 試験時間：30分
- ・ 受験者：20名（基本研修受講者）

- 採点の結果、平均点は97点（最高点100点、最低点90点）となり、得点率が9割を下回る者はいなかったため、全員を合格とした。

### <分野別の正答率>

分 野	正答率
・呼吸の仕組みと人工呼吸器の仕組み	96.7%
・気管切開と人工換気	96.3%
・在宅における感染防止	100.0%
・人工呼吸器装着中の利用者のたんの吸引	95.0%
・経管栄養について	95.6%
・在宅人工呼吸器生活者の生活実態とケア	100.0%

- 設問ごとに正答率を見た場合、最高で100%、最低で75%となっており、設問ごとの正答率に差が生じた。

※ 正答率が低かったのは、たんの吸引が必要な状態に関する設問（正答率85%）、経管栄養が必要な状態に関する設問（正答率75%）となっていた。

## (7) 実地研修の実施状況

### ア. 実地研修参加者（利用者）の属性（総数8名）

【疾患】全員が筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者であり、人工呼吸器を使用している。

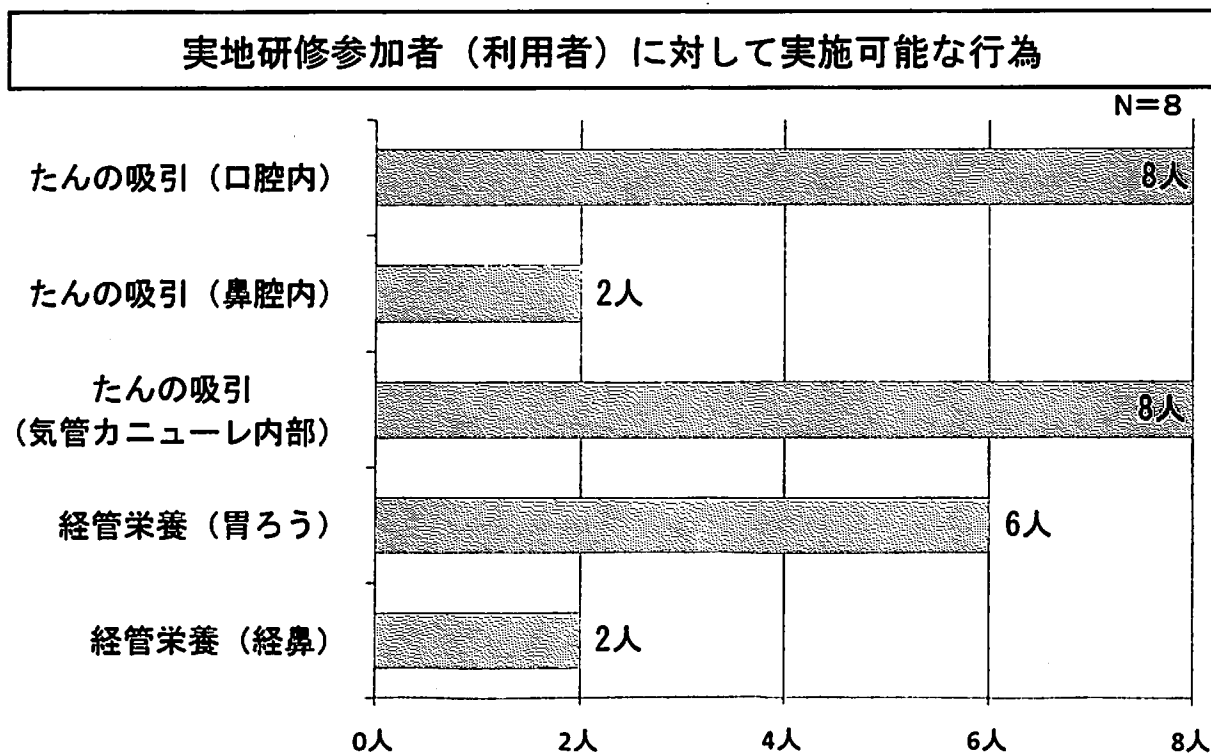
【性別】男5名（62.5%）、女3名（37.5%）

【平均年齢】60.8歳（最年少38歳、最年長70歳）

【要介護度】全員が「要介護度5」に該当

【障害程度区分】全員が「区分6」に該当

【障害高齢者の日常生活自立度】全員が「C」に該当



※ 腸ろうの者はいなかった。

イ. 実地研修の状況（現在進行中）（平成23年2月1日現在）

＜実地研修において全区分が「ア」となった回数の状況＞【指導者評価】

（単位：人）

		1～5回目	6～10回目	全部アになっていない者	合計
たんの吸引	口腔内	11 (91.7%)	1 (8.3%)	0 (0%)	12 (100%)
	鼻腔内	9 (90%)	0 (0%)	1 (10%)	10 (100%)
	気管カニューレ内部	10 (83.3%)	2 (16.7%)	0 (0%)	12 (100%)
経管栄養	胃ろう	5 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (100%)
	経鼻	5 (71.4%)	0 (0%)	2 (28.6%)	7 (100%)

※ 回数のカウントに当たっては、連続で2回全ての項目が「ア」となった場合の最初の回の回数をカウントしている。

※ 全ての項目が「ア」となっていない者については、実地研修を継続中である。